

保育所・認定こども園に関する保育の内容等に関する
実態調査報告書

有限責任監査法人トーマツ

令和 7 年 3 月

目次

第1章 本調査の実施概要	2
1. 本調査の背景・目的	2
(1) 保育所保育指針の趣旨	2
(2) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領	2
(3) 保育の内容に関する近年の施策・取組	3
2. 本調査の全体像	4
第2章 アンケート調査	5
1. アンケート調査の概要	5
(1) 調査目的	5
(2) 調査手法	5
(3) 調査実施時期	5
(4) 調査数と回答数	5
(5) 回答のクレンジング	5
(6) 調査項目	6
2. アンケート調査結果	8
(1) 保育所向け調査	8
(2) 認定こども園向け調査	48
第3章 ヒアリング調査	90
1. ヒアリング調査の概要	90
(1) 調査目的	90
(2) 調査対象	90
(3) 調査時期	90
(4) 調査手法	90
(5) ヒアリング項目	90
(6) ヒアリング調査先の選定	90
2. ヒアリング調査結果	91
(1) 指導計画作成と振返り	91
(2) 異年齢保育に関する事項	91
(3) 年齢に応じた保育の実施	92
(4) 保育における ICT・デジタル機器の活用	94
(5) 小学校との接続を意識した保育の実施	94

第1章 本調査の実施概要

1. 本調査の背景・目的

平成29年3月に保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂され、平成30年4月からそれぞれ実施・適用されている。また、本改訂後、子育てや保育をめぐる環境や関連法律・施策が大きく変化している。本調査は、今後の施策の参考とするため、前回の改訂からの変化を踏まえつつ、指針・要領等に基づく各保育所等の保育の内容等の実施状況を把握することを目的とし実施した。

(1) 保育所保育指針の趣旨

保育所保育指針は、「全ての子どもの健やかな育ちの実現へとつながる取組」を推進するにあたり、一定の保育所保育の質の水準を保ち、更なる向上の基点となることを目的として、遵守、努力義務、各保育所の創意や裁量の事項に区別して、保育の基本的な考え方、保育の内容、運営に関する取組等を整理している。

本指針は昭和40年に策定され、平成2年、平成11年の改訂後、平成20年に告示化され、直近では「社会保障審議会児童部会保育専門委員会」における改定の目的、方向性、内容等の議論を踏まえ、平成29年に改定された。

前回の改定時においては、子ども・子育て支援新制度の施行、1、2歳児を中心とした保育所利用児童数の増加、子育てをめぐる地域や家庭の状況の変化、子どもの子育てに関わる社会問題、研究による新たなエビデンス等が契機となり、特に「乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関する記載の充実」、「保育所保育における幼児教育の積極的な位置づけ」、「子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえた健康及び安全の記載の見直し」、「保護者・家庭及び地域と連携した子育て支援の必要性」、「職員の資質・専門性の向上」を改定の方向性と定めた。

(2) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

幼保連携型認定こども園教育・保育要領は平成27年に施行されたが、幼稚園教育要領及び上記の保育所保育指針の改訂内容との整合性を確保し、施行後に得られた幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項等に関する知見を反映するため、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に関する検討会」等の議論を踏まえて平成29年に改訂された。

本要領を改訂後、より保育の内容を充実させていくため、内閣府・文部科学省・厚生労働省は「幼保連携型認定こども園園児指導要録の改善及び認定こども園こども要録の作成等に関する留意事項等について（通知）」（平成30年）、「幼保連携型認定こども園における園児が心を寄せる環境の構成」（令和4年）等の参考資料を用意し、また、内閣府においては「一人一人に応じた教育及び保育を展開していくために ～幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく教育及び保育の質の向上に向けた実践事例集～」（令和2年）等の事例集を提供するなど、保育の内容の質

の更なる充実に向けて活動している。

(3) 保育の内容に関する近年の施策・取組

名称等	概要
こども基本法 (令和4年法律第77号)	全てのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会(こどもまんなか社会)の実現を目指し、こども政策を総合的に推進することを目的として策定された法律であり、6つの基本理念に基づいた取組である「こども大綱」(令和5年12月22日閣議決定)、及び「こどもまんなか実行計画2024」(令和6年5月31日こども政策推進会議決定)が発表された。
こども未来戦略方針 (令和5年6月13日閣議決定)	こども・子育て支援加速化プランとして今後3年間で実施する施策のうち、保育に関する取組として、職員配置基準及び処遇改善の検討、「こども誰でも通園制度(仮称)」の創設、多様な支援ニーズへの対応等が掲げられている。それらの施策の背景には、幼児教育・保育現場におけるこどもをめぐる事故や不適切な対応事案、子育て家庭が直面している「孤立した育児」環境、多様な働き方やライフスタイルの推進、障害の有無に関わらず安心して暮らすことができる地域づくりの推進等、様々な社会問題や環境の変化が挙げられている。
新子育て安心プラン	待機児童の解消や女性の就業率の上昇に対応するため、令和3年度から令和6年度末までに約14万人分の保育の受け皿を整備する計画。
子ども・子育て支援新制度	「量」と「質」から子育てを社会全体で支えることを目的に、平成24年8月に成立した「子ども・子育て支援法」、「認定こども園法の一部改正」、「子ども・子育て支援法及び認定こども園法の一部改正法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」に基づく制度であり、認定こども園、幼稚園、保育所等に対する給付の創設、認定こども園制度の改善、地域の実情に応じた子ども・子育て支援の充実、実施主体である市町村の支援、消費税率の引き上げによる社会全体による費用負担、内閣府の子ども・子育て本部の設置、子ども・子育て会議の設置等が主な取組となっている。
ガイドライン等	「障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導」、「保育所における感染症対策ガイドライン(2023年5月一部改訂)」、「令和2年度保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイド

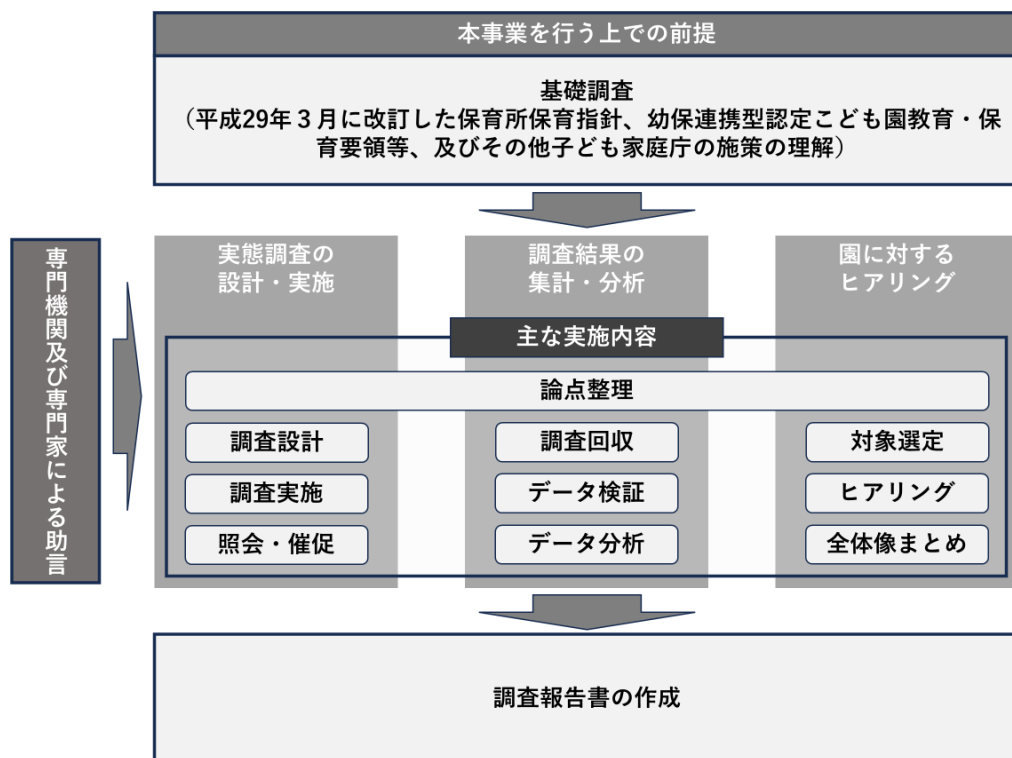
	ライン」(及び事例集)、「子どもを中心に保育の実践を考える～保育所保育指針に基づく保育の質向上に向け た実践事例集～」、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(2019 年改訂版)」、「保育所における自己評価ガイドライン(2020 年改訂版)」等、より具体的に事例や調査を基に情報を発信し、更なる保育の内容の充実を図ってきた。
調査研究等	「保育現場での DX の推進に向けた調査研究事業」、「外国籍等の子どもへの保育に関する調査研究」、「保育所等における保育実践の充実に関する調査」等が実施されており、重点的に調査・議論したうえで、その結果がまとめられている。

2. 本調査の全体像

本調査では、以下の手順で調査を実施する。

- ① 実態調査（Web アンケート調査）の設計・実施
- ② 実態調査の調査結果の集計・分析
- ③ 園に対するヒアリング調査
- ④ 調査報告書の作成

図 1 調査実施の流れ



第2章 アンケート調査

1. アンケート調査の概要

(1) 調査目的

平成 29 年 3 月に改訂され、平成 30 年 4 月から実施・適用されている、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領等に基づく各保育所等の保育の内容等の実施状況を把握することを目的とする。

(2) 調査手法

令和 6 年 9 月 18 日時点の「ここ de サーチ」に公表されている認可保育所、認定こども園（幼保連携型、保育所型、地方裁量型）に調査の協力依頼状を発送した。

専用のアンケートシステムに回答を頂いた。専用のアンケートシステムは、保育所用 Web と認定こども園用 Web をそれぞれ準備し調査を実施した。また、施設において Web へのアクセスが困難等の場合は、事務局より回答ファイルを送付し、回答をメールあるいは郵送で返信を頂いた。

(3) 調査実施時期

令和 6 年 10 月 30 日（水）～令和 7 年 1 月 11 日（土）

(4) 調査数と回答数

	実送付数	回答数	回答率（参考） （回答数÷ 実送付数）	有効回答数	有効回答率 （参考） （有効回答数÷ 実送付数）
保育所	22,352	15,011	67.2%	13,983	62.6%
認定こども園	8,333	6,291	75.5%	6,172	74.1%

実送付数は、発送数から事務局に宛先不明により返送された数を除いた数である。なお、回答数の中には、調査票を送付していない園からの回答が含まれるため、回答率は参考とした。

(5) 回答のクレンジング

下記のクレンジングを行い、有効回答数とした。

データクレンジングの理由（重複あり）	除外数
施設種別と Web の種別との相違 （例：認定こども園が保育所専用 Web で回答）	622

データクレンジングの理由（重複あり）	除外数
重複回答	697 件
必須回答に回答をしていない	15 件
調査対象外の施設からの回答	78 件
クレンジング件数	1,147 件

（６）調査項目

調査項目は以下のとおり。各園における保育所保育指針あるいは幼保連携型認定こども園教育・保育要領等に基づく保育の実施状況を把握した。

大項目	調査項目概要
基本情報	施設所在地、施設名、設置主体、経営主体、回答者の役職、在籍数
保育の計画	- 全体計画の作成にあたり重視している事項 3歳未満児（園児）、3歳以上児（園児）の指導計画作成にあたり重視している事項 - 保険計画の作成にあたり重視している事項 - 指導計画の作成周期
異年齢保育	- 異年齢で構成される組・グループでの活動と指導計画 - 指導計画作成にあたり重視している事項
特別な配慮を必要とするこども（園児）への保育	- 障害のあるこども（園児）への保育に関する取組の内容 - 外国人幼児などへの保育に関する取組の内容
保育の評価	- 保育士等の自己評価において重視している事項 - 保育所あるいは認定こども園における保育内容等の評価においてしている事項 - 自己評価の公表、活用
保育所保育指針あるいは幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育	- 保育所保育指針、あるいは幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される内容について、「かなり重視して取り組んでいる」事項および「難しさを感じている」事項（年齢別、領域別） - 保育の実施における工夫、特に力を入れている事項

大項目	調査項目概要
施設の状況	• こども（園児）の遊びにおいて活用している場所 • 保有している絵本等の数量 • ICT・デジタル機器の保有と活用方法
小学校との連携	• 小学校との連携、情報共有のための取組
安全・事故・災害への対策	• 安全計画の策定において重視している事項 • 保育中の事故の発生、災害への備えに関して、重視している事項 • 地域との連携
子育て支援	• 施設を利用している保護者、地域の保護者に対する子育て支援の内容
その他	• 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用方法 • 食育において重視している事項 • 虐待対策の取組

2. アンケート調査結果

(1) 保育所向け調査

※選択肢文が長い場合は、説明文を一部省略して記している。

Q1 貴園が設置されている都道府県を選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	北海道	415	3.0
2	青森県	148	1.1
3	岩手県	209	1.5
4	宮城県	264	1.9
5	秋田県	159	1.1
6	山形県	144	1.0
7	福島県	215	1.5
8	茨城県	300	2.1
9	栃木県	205	1.5
10	群馬県	138	1.0
11	埼玉県	913	6.5
12	千葉県	793	5.7
13	東京都	1,680	12.0
14	神奈川県	934	6.7
15	新潟県	334	2.4
16	富山県	124	0.9
17	石川県	51	0.4
18	福井県	117	0.8
19	山梨県	96	0.7
20	長野県	344	2.5
21	岐阜県	200	1.4
22	静岡県	232	1.7
23	愛知県	1,014	7.3
24	三重県	229	1.6

	内容	数	割合 (%)
25	滋賀県	110	0.8
26	京都府	167	1.2
27	大阪府	468	3.3
28	兵庫県	363	2.6
29	奈良県	101	0.7
30	和歌山県	84	0.6
31	鳥取県	99	0.7
32	島根県	158	1.1
33	岡山県	187	1.3
34	広島県	388	2.8
35	山口県	195	1.4
36	徳島県	103	0.7
37	香川県	96	0.7
38	愛媛県	164	1.2
39	高知県	176	1.3
40	福岡県	457	3.3
41	佐賀県	82	0.6
42	長崎県	195	1.4
43	熊本県	275	2.0
44	大分県	126	0.9
45	宮崎県	167	1.2
46	鹿児島県	262	1.9
47	沖縄県	302	2.2
	全体	13,983	100.0

Q2 施設の所在地をご記入ください。市区町村以下の住所をご記載ください。

Q3 事業所番号をご記入ください。(事業所番号は封筒の宛名右下に記載の 13 桁の数字です。ゼロから始まる番号の場合はゼロからご記入ください。)

Q4 施設名をご記入ください。

Q2 から Q4 の回答数はすべて 13,983 である。

Q5 貴園の設置主体を選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	公設公営	4,994	35.7
2	公設民営	1,375	9.8
3	民設民営	7,614	54.5
	全体	13,983	100.0

園の設置主体は、民設民営が 54.5% (7,614 施設)、公設公営が 35.7% (4,994 施設)、公設民営が 9.8% (1,375 施設) であった。

Q6 貴園の経営主体を選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	社会福祉法人	6,758	75.2
2	学校法人	269	3.0
3	特定非営利活動法人	139	1.5
4	営利法人 (株式会社等)	1,396	15.5
5	その他	427	4.8
	全体	8,989	100.0

Q5 で公設民営、民設民営と回答した 8,989 施設のうち、その経営主体で最も多いのは社会福祉法人で 75.2% (6,758 施設)、次いで営利法人 (株式会社等) 15.5% (1,396 施設) であった。

Q7 本調査に回答いただく、あなたの役職をお選びください。

	内容	数	割合 (%)
1	園長・施設長	12,155	86.9
2	副園長・副施設長	797	5.7
3	その他	1,031	7.4
	全体	13,983	100.0

本調査に回答頂いた人の役職は、園長・施設長が 86.9% (12,155 施設) であった。

Q8 令和 6 年 10 月 1 日時点の各年齢の在籍数をご回答ください。

	全体	合計	平均	最小値	最大値	中央値
0歳児 (令和5年4月2日生まれ～)	13,983	82,690	6	0	41	6
1歳児 (令和4年4月2日～令和5年4月1日生まれ)	13,983	176,819	13	0	69	12
2歳児 (令和3年4月2日～令和4年4月1日生まれ)	13,983	204,205	15	0	70	14
3歳児 (令和2年4月2日～令和3年4月1日生まれ)	13,983	220,886	16	0	99	15
4歳児 (平成31年4月2日～令和2年4月1日生まれ)	13,983	224,919	16	0	88	15
5歳児 (平成30年4月2日～平成31年4月1日生まれ)	13,983	230,515	16	0	96	15

保育所の規模が多様であるため参考値となるが、各年齢の在籍数について、0 歳児は平均 6 人（1 園あたり）、1 歳児から 5 歳児は平均 15 名前後（1 園あたり）であった。

Q9 ここからは保育の計画及び評価についてお聞きします。全体的な計画を作成するにあたり、重視している事項をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	こどもの発達過程を長期的に見通し、保育所の生活全体を通して、それぞれの時期にふさわしい具体的なねらいと内容を、一貫性をもって構成すること	12,191	87.2
2	各保育所の保育の理念、目標、方針等について職員間の共通理解を図ること	11,726	83.9
3	保育所保育の基本について、職員間の共通理解を図ること	10,819	77.4
4	全体的な計画に基づく保育の経過や結果について省察、評価し、課題を明確化すること	9,482	67.8
5	乳幼児期の発達及びこども、家庭、地域の実態、保育所に対する社会の要請、保護者の意向などを把握すること	9,364	67.0
6	改善に向けた取組の方向性を職員間で共有し、次の作成に生かすこと	8,697	62.2
7	保育時間の長短、在籍期間の長短、その他こどもの発達や心身の状態及び家庭の状況に配慮をすること	7,832	56.0
8	その他	166	1.2
9	重視している特定の項目はない	33	0.2
	全体	13,983	—

全体的な計画を作成するにあたり重視している事項は、「それぞれの時期にふさわしい具体的なねらいと内容を、一貫性をもって構成すること」が 87.2%（12,191 施設）と最も多く、次いで「各保育所の保育の理念、目標、方針などについて職員間の共通認識を図ること」が 83.9%（11,726 施設）であった。また、「その他」「重視している特定の項目はない」を除く全ての選択肢において 50%を上回っている。

Q10 長期的な指導計画はどのような単位で作成していますか。（複数選択可）

	内容	数	割合 (%)
1	毎月	9,364	67.0
2	期	5,097	36.5
3	半年	541	3.9
4	年	11,686	83.6
5	その他	203	1.5
	全体	13,983	—

長期的な指導計画は、年次では 83.6%（11,686 施設）、月次では 67.0%（9,364 施設）、期ごとでは 36.5%（5,097 施設）が作成している。

Q11 短期的な指導計画はどのような単位で作成していますか。（複数選択可）

	内容	数	割合（％）
1	日	6,132	43.9
2	週	12,502	89.4
3	2週間	654	4.7
4	その他	835	6.0
	全体	13,983	－

短期的な指導計画は、週次では 89.4％（12,502 施設）、日次では 43.9％（6,132 施設）で作成している。

Q12 指導計画を立てる際に「生命の保持」「情緒の安定」において重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合（％）
1	一人一人のこどもの平常の健康状態や発育及び発達の状態を的確に把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する	11,419	81.7
2	家庭との連携を密にし、嘱託医等との連携を図りながら、こどもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める	9,819	70.2
3	清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通してこどもの生理的欲求を満たしていく	11,708	83.7
4	家庭と協力しながら、こどもの発達過程等に応じた適切な生活のリズムがつくられていくようにする	11,045	79.0
5	こどもの発達過程等に応じて、適度な運動と休息を取ることができるようにする	10,076	72.1
6	食事、排泄、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、こどもが意欲的に生活できるよう適切に援助する	12,060	86.2
7	一人一人のこどもの置かれている状態や発達過程などを的確に把握し、こどもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉がけを行う	11,930	85.3
8	一人一人のこどもの気持ちを受容し、共感しながら、こどもとの継続的な信頼関係を築いていく	12,536	89.7
9	保育士等との信頼関係を基盤に、一人一人のこどもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信をもつことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかける	12,308	88.0
10	一人一人のこどもの生活のリズム、発達過程、保育時間などに応じて、活動内容のバランスや調和を図りながら、適切な食事や休息が取れるようにする	10,873	77.8
11	その他	81	0.6
12	重視している特定の項目はない	37	0.3
	全体	13,983	－

指導計画を作成するにあたり、「生命の保持」「情緒の安定」において重視している項目は、「こどもとの継続的な信頼関係を築く」が 89.7％（12,536 施設）と最も多く、次いで「自分への自信を持つことができるよう成長の過程を見守り適切に働きかける」が 88.0％（12,308 施設）であっ

た。また、「その他」「重視している特定の項目はない」を除き全ての項目において70%を上回っている。

Q13 3歳未満児の指導計画を作成するにあたって、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	一人一人のこどもの生育歴、心身の発達、活動の実態を把握することについて	12,708	91.9
2	保健及び安全面への十分な配慮について	12,292	88.9
3	一日の生活全体の連続性を踏まえた家庭との連携について	11,332	82.0
4	特定の保育士等とこどもとの情緒的な絆の形成について	8,221	59.5
5	看護師・栄養士・調理員等との緊密な協力体制の構築について	7,597	54.9
6	その他	152	1.1
7	重視している特定の項目はない	39	0.3
	全体	13,826	—

※本質問は、Q8で0歳児から2歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

3歳未満児の指導計画を作成するにあたり重視している項目は、「一人一人のこどもの成育歴、心身の発達、活動の実態を把握すること」が最も多く91.9%（12,708施設）、次いで「保健及び安全面への十分な配慮」88.9%（12,292施設）、「一日の生活全体の連続性を踏まえた家庭との連携」82.0%（11,332施設）であった。

Q14 3歳以上児の指導計画を作成するにあたって、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	一人一人のこどもの主体性について	11,939	89.1
2	発達の各時期にふさわしい生活が展開されるようにすることについて	11,600	86.6
3	一人一人のこどもの個性や育ちについて	11,482	85.7
4	クラスやグループなどの集団の構成について	9,451	70.5
5	その他	226	1.7
6	重視している特定の項目はない	30	0.2
	全体	13,399	—

※本質問は、Q8で3歳児から5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

3歳以上児の指導計画を作成するにあたっては、「一人一人のこどもの主体性について」が89.1%（11,939施設）、「発達の各時期にふさわしい生活が展開されるようにすることについて」が86.6%（11,600施設）、「一人一人のこどもの個性や育ちについて」が85.7%（11,482施設）、「クラスやグループなどの集団の構成について」が70.5%（9,451施設）と、4つの項目で、70%を上回っている。

Q15 日常の保育の中で異年齢で構成される組やグループでの活動を行っていますか。

	内容	数	割合 (%)
1	行っている	9,843	70.4
2	行っていない	4,140	29.6
	全体	13,983	100.0

日常の保育の中で異年齢で構成される組やグループでの活動を行っているかについて、「行っている」が70.4%（9,843施設）であった。

Q16 異年齢で構成される組やグループの指導計画を作成していますか。

	内容	数	割合 (%)
1	作成している	4,459	45.3
2	作成していない	5,384	54.7
	全体	9,843	100.0

Q15で異年齢で構成される組やグループでの活動を行っているとは回答した9,843施設のうち、異年齢で構成される組やグループの指導計画を「作成している」は45.3%（4,459施設）、「作成していない」は54.7%（5,384施設）であった。

Q17 異年齢で構成される組やグループの指導計画の作成にあたって、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	こども同士が自ら関係をつくり、遊びを展開していけるような十分な配慮について	3,893	87.3
2	保育のねらいや内容を明確にもった適切な環境の構成や援助について	3,721	83.5
3	一人一人のこどもの生活や経験、発達過程などの把握について	3,265	73.2
4	その他	66	1.5
5	重視している特定の項目はない	12	0.3
	全体	4,459	—

※本質問は、Q16で異年齢で構成される組やグループの指導計画を「作成している」と回答した園4,459件を対象にしている。

Q16で異年齢で構成される組やグループの指導計画を「作成している」と回答した4,459施設において、異年齢で構成される組やグループの指導計画の作成にあたって重視している項目は、「こども同士が自ら関係をつくり、遊びを展開していけるような十分な配慮」が87.3%（3,893施設）、「保育のねらいや内容を明確にもった適切な環境の構成や援助」が83.5%（3,721施設）、「一人一人のこどもの生活や経験、発達過程などの把握」が73.2%（3,265施設）と3つの項目で70%を上回っている。

Q18 特別な配慮を必要とするこどもへの保育に関して行っていることのうち、障害のあるこどもに関する内容について（今後の予定を含む）、あてはまる項目すべてを選択してください。

	内容	数	割合（％）
1	保護者の抱えてきた悩みや不安などを理解し支えるための援助を行っている	10,607	75.9
2	適切な環境の下で、障害のあるこどもが他のこどもとの生活を通して共に成長できるよう、個別の指導計画を作成している	10,156	72.6
3	小学校との連携のため、保育所児童保育要録の送付以外に当該児の情報を共有したり、小学校教員が園を訪問したりしている	9,324	66.7
4	児童発達支援センター等に対し専門的な助言又は援助を要請している	8,914	63.7
5	保育所と児童発達支援センター等の関係機関とで定期的に障害のあるこどもの支援にむけて、話し合う機会をもっている	8,679	62.1
6	保護者とこどもについての理解を深め合うための特別な機会を確保している	8,133	58.2
7	家庭や関係機関と連携するための個別の支援計画を作成している	7,972	57.0
8	障害のあるこどもが地域で共に生きる意識をもつことができるようにしたりするための配慮を行っている	4,939	35.3
9	他のこどもの保護者に対する、障害等に対する理解が深まるよう支援している	4,348	31.1
10	今年度、障害のあるこどもは、在籍していない	986	7.1
11	その他	266	1.9
	全体	13,983	－

特別な配慮を必要とするこどもへの保育に関して行っていることのうち、障害のあるこどもに関する内容は、「保護者の抱えてきた悩みや不安などを理解し支えるための援助」が最も多く75.9%（10,607 施設）、次いで「個別の指導計画の作成」が72.6%（10,156 施設）であった。一方で「障害のあるこどもが地域で共に生きる意識をもつことができるための配慮」「他のこどもの保護者に対する、障害等に対する理解が深まるための支援」については、それぞれ35.3%（4,939 施設）、31.1%（4,348 施設）に留まっている。

Q19 障害のあるこどもの個別の指導計画を立てる際、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合（％）
1	一人一人の実態を的確に把握すること	9,441	93.0
2	援助の内容について	8,443	83.1
3	課題となっていることが生じやすい場面や状況、その理由などを適切に分析をすること	8,139	80.1
4	場面に適した行動などの具体的な目標をたてること	7,960	78.4
5	こどもの特性や能力に応じて、1週間から2週間程度を目安に少しずつ達成していけるよう細やかな目標を設定すること	3,817	37.6
6	その他	225	2.2
7	重視している特定の項目はない	22	0.2
	全体	10,156	－

※本質問は、Q18で2「適切な環境の下で、障害のあるこどもが他のこどもとの生活を通して共に成長できるよう、個別の指導計画を作成している」と回答した園10,156件を対象にしている

障害のあるこどもの個別の指導計画を立てる際、重視している項目は、「一人一人の実態の的確な把握」が最も多く 93.0%（9,441 施設）、次いで「援助の内容」が 83.1%（8,443 施設）、「課題に関する分析」が 80.1%（8,139 施設）であった。一方で、「細やかな目標の設定」については 37.6%（3,817 施設）に留まっている。

Q20 特別な配慮を必要とするこどもへの保育に関して行っていることのうち、外国人幼児など（言語や文化的背景等の違いにより、本人又は保護者への支援を要する幼児）に関する内容について（今後の予定を含む）、あてはまる項目すべてを選択してください。

	内容	数	割合（%）
1	保護者に園生活や園の方針を丁寧に説明している	7,939	56.8
2	小学校との連携のため、保育所児童保育要録の送付以外に当該児の情報を共有したり、小学校教員が園を訪問したりしている	4,666	33.4
3	母語を用いた挨拶や言葉がけを行っている	2,642	18.9
4	その他	834	6.0
5	今年度、外国人幼児などは在籍していない	5,154	36.9
	全体	13,983	—

「今年度、外国人幼児などが在籍していない」園が 36.9%（5,154 施設）あった。外国人幼児などに関する内容について（今後の予定も含む）最も多い項目は、「保護者への丁寧な説明」で 56.8%（7,939 施設）であった。

Q21 児童票に記載されている項目に関して、育ちに関する情報について記載されている項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合（%）
1	健康に関する記録（既往歴、アレルギー有無・原因、予防接種歴など）	13,452	96.2
2	入所時の状況（食事、排泄、睡眠、好きな遊びなど）	12,795	91.5
3	保育の展開とこどもの育ち	10,436	74.6
4	その他の特記事項	1,119	8.0
5	児童票は作成していない	90	0.6
	全体	13,983	—

児童票において育ちに関する情報について記載されている項目は、「健康に関する記録」が最も多く 96.2%（13,452 施設）、次いで「入所時の状況」が 91.5%（12,795 施設）であった。

Q22 保育士等がこどもに対する理解を深めるために、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	こどもの発達の状況を日頃から保護者に伝え、こどもが育つ姿を共有している	13,385	95.7
2	こどもの発達の状況を次の保育者または小学校等に伝え、こどもが育つ姿を共有している	11,637	83.2
3	複数の保育士で判断の根拠となっている考え方を突き合わせ、多面的にこどもを捉えている	11,113	79.5
4	写真付きの記録を作成したりエピソードを記録したり等、評価の参考となる情報をできるだけ充実させる	6,464	46.2
5	その他	228	1.6
6	重視している特定の項目はない	20	0.1
	全体	13,983	—

保育士がこどもに対する理解を深めるために重視している項目は、「保護者とのこどもが育つ姿の共有」が最も多く 95.7%（13,385 施設）、次いで「次の保育者または小学校へのこどもが育つ姿の共有」が 83.2%（11,637 施設）であった。

Q23 保育士等の自己評価について、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育の実践の改善に努めている	12,465	89.1
2	保育士等は、自己評価における自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にしている	11,081	79.2
3	保育士等による自己評価に当たっては、こどもの活動内容やその結果だけでなく、こどもの心の育ちや意欲、取り組む過程等にも十分配慮するよう留意している	10,696	76.5
4	保育所全体の保育の内容に関する認識を深めている	9,322	66.7
5	その他	175	1.3
6	重視している特定の項目はない	90	0.6
	全体	13,983	—

保育士等の自己評価について重視している項目は、「専門性の向上や保育の実践の改善に努めている」が最も多く 89.1%（12,465 施設）、次いで「専門性の向上や保育の質の向上のための課題を明確にしている」が 79.2%（11,081 施設）であった。

Q24 保育所における保育内容等の評価にあたって、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	同じ保育所の職員間での対話等	12,757	91.2
2	保護者からの意見や要望等	11,929	85.3
3	自治体職員等からの意見や助言等	5,029	36.0
4	他の保育所等の職員からの意見・助言等	4,698	33.6
5	評価機関の評価者（第三者評価等）からの意見・助言等	4,515	32.3
6	地域住民からの意見や要望等	4,432	31.7
7	大学等の教員・研究者からの意見や助言等	2,209	15.8
8	その他	218	1.6
9	重視している特定の項目はない	141	1.0
	全体	13,983	—

保育所における保育内容等の評価にあたって重視している項目は、「同じ保育所の職員間での対話等」が最も多く 91.2%（12,757 施設）、次いで「保護者からの意見や要望等」が 85.3%（11,929 施設）であった。また、「自治体職員等からの意見や助言等」、「他の保育所等の職員からの意見・助言等」、「評価機関の評価者（第三者評価等）からの意見・助言等」、「地元住民からの意見や要望等」は 30%代に留まる。

Q25 保育所における保育内容等の自己評価結果の公表について、どのような方法で公表していますか。あてはまる項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	クラスだより・園だよりなど、保育所で発行している通信を活用している	6,626	47.4
2	保護者に目につきやすい場所に掲示している	5,563	39.8
3	連絡帳やインターネット上のサービスなど、保護者とのコミュニケーションのためのツールを活用している	4,366	31.2
4	保護者会の機会に報告や説明をしている	4,356	31.2
5	自治体ホームページに掲載している	1,751	12.5
6	リーフレット等の資料を作成し、関心のある人が手に取れるようにしている	1,400	10.0
7	その他	2,141	15.3
	全体	13,983	—

保育所における保育内容等の自己評価結果の公表の方法について、「保育所で発行している通信を活用している」が 47.4%（6,626 施設）と最も多く、次に「保護者に目につきやすい場所に掲示している」が 39.8%（5,563 施設）、「連絡帳やインターネット上のサービスなど、保護者とのコミュニケーションツールを活用している」と「保護者会の機会に報告や説明をしている」は 31.2%（4,366 施設、4,356 施設）の同率であった。公表の方法にばらつきがあることが伺える。また、「その他」には「公表していない」も含まれていた。

Q26 保育所における保育内容等の自己評価の活用について、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	保育の改善・充実	12,685	90.7
2	職員の資質・専門性の向上	12,435	88.9
3	職員間の相互理解・協働	10,900	78.0
4	関係者（保護者等）との理解の共有・連携の促進	8,693	62.2
5	その他	115	0.8
	全体	13,983	－

保育所における保育内容等の自己評価の活用について、重視している項目は、「保育の改善・充実」が最も多く 90.7%（12,685 施設）、次いで「職員の資質・専門性の向上」が 88.9%（12,435 施設）であった。

Q27 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をどのように活用していますか。あてはまるものをすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	長期の指導計画（年間計画、月案等）の作成時に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を使用して話し合ったり、書いたりしている	9,089	65.0
2	全体的な計画の作成時に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を使用して話し合ったり、書いたりしている	8,905	63.7
3	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を引用して、こどもの育ちや学びを小学校と共有している	7,238	51.8
4	指導の過程の振り返り時に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を使用して話し合ったり、書いたりしている	6,724	48.1
5	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を引用して、こどもの育ちや学びを保護者と共有している	5,350	38.3
6	短期の指導計画（週案、日案等）の作成時に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を使用して話し合ったり、書いたりしている	5,318	38.0
7	その他	402	2.9
8	特に活用していない	588	4.2
	全体	13,983	－

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用について、「長期の指導計画の作成時に項目名や具体的な記述を使用して話し合ったり書いたりしている」が最も多く 65.0%（9,089 施設）、次いで「全体的な計画の作成時に項目名や具体的な記述を使用して話し合ったり書いたりしている」が 63.7%（8,905 施設）であった。一方で「特に活用していない」が 4.2%（588 施設）だった。

Q28 Q28 から Q31 の質問は、保育所保育指針第 2 章「保育の内容」乳児保育について伺います。以下の項目は、保育所保育指針の「健やかに伸び伸びと育つ」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする	11,122	90.9	1,276	10.4
2	一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす	9,862	80.6	1,141	9.3
3	個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ	9,431	77.1	2,296	18.8
4	一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする	9,575	78.2	1,828	14.9
5	おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる	9,507	77.7	731	6.0
6	あてはまるものはない	331	2.7	8,280	67.7
	全体	12,237	—	12,237	—

※本質問は、Q8 で 0 歳児が 1 名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8 で 0 歳児が 1 名以上在籍すると回答した園 12,237 施設において、保育所保育指針の「健やかに伸び伸びと育つ」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、かなり重視して取り組んでいるのは、「保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする」が最も多く 90.0% (11,122 施設)、続いて「一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす」が 80.6% (9,862 施設)であった。一方難しさを感じているのは、「個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な職員に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ」が最も多く 18.8% (2,296 施設)、続いて「一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする」が 14.9% (1,828 施設)であった。

Q29 以下の項目は、保育所保育指針の「身近な人と気持ちを通じ合う」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	こどもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす	10,466	85.5	1,420	11.6
2	体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育士等とのやり取りを楽しむ	10,038	82.0	819	6.7
3	生活や遊びの中で、自分の身近な人の存在に気づき、親しみの気持ちを表す	9,707	79.3	780	6.4
4	保育士等による語りかけや歌いかけ、発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ	9,630	78.7	1,146	9.4
5	温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える	10,186	83.2	1,299	10.6
6	あてはまるものはない	311	2.5	9,599	78.4
	全体	12,237	—	12,237	—

※本質問は、Q8で0歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8で0歳児が1名以上在籍すると回答した園 12,237 施設において、保育所保育指針の「身近な人と気持ちを通じ合う」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、かなり重視して取り組んでいるのは、「こどもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす」が最も多く 85.5% (10,466 施設)、続いて「温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える」が 83.2% (10,186 施設) であった。一方難しさを感じているのは、「こどもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす」が最も多く 11.6% (1,420 施設)、続いて「温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える」が 10.6% (1,299 施設) であった。

Q30 以下の項目は、保育所保育指針の「身近なものに関わり感性が育つ」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ	9,729	79.5	941	7.7
2	生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気づき、感覚の働きを豊かにする	10,037	82.0	1,224	10.0
3	保育士等と一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る	9,302	76.0	704	5.8
4	玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ	9,780	79.9	853	7.0
5	保育士等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする	10,049	82.1	745	6.1
6	あてはまるものはない	442	3.6	10,088	82.4
	全体	12,237	—	12,237	—

※本質問は、Q8で0歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8で0歳児が1名以上在籍すると回答した園 12,237 施設において、保育所保育指針の「身近なものに関わり感性が育つ」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において乳児保育に関する質問である Q28 から Q30 における「かなり重視して取り組んでいる」はすべての項目で 75%以上であった。一方で「難しさを感じている」については、Q28 「健やかに伸び伸びと育つ」において割合が高い項目が多かった。具体的には Q28 の中の「様々な食品に慣れ、食べることを楽しむ」「一人一人の生活のリズムに応じて十分に午睡をする」がそれぞれ 18.8% (2,296 施設)、14.9% (1,828 施設) であった。これは Q28 から Q30 の全項目の中で 1 番目、2 番目に多い項目である。

Q31 乳児保育を実施するにあたり、特に力をいれていたり、工夫していることがありましたら具体的に記入をしてください。（自由記述）

	キーワード	出現回数
1	安心	859
2	担当制	616
3	愛着	587
4	安全	477
5	保護者（連携を含まない）	451
6	遊び	434

	キーワード	出現回数
7	食事	265
8	保護者（あるいは家庭）・連携	216
9	応答的な関わり	183
10	離乳食	170

保育士、こどもの出現回数はカウントしていない。

上記はSherpa AIを用いて、頻出ワードを抽出するテキスト分析を実施した結果である。

乳児保育の実施に関する自由記述 5,491 件において、「安心」「担当制」「愛着」を含む自由記述が多くみられた。

自由記述の例（抜粋および要約）	キーワード
・家庭での生活リズムを保育園に取り入れ、こどもが安心して過ごせる環境を提供し、遊びに意欲的になれるようにしている。 ・担当制を通じて、特定の保育者がこどもの日常的な食事、排泄、睡眠を管理し、情緒の安定を図っている。	安心、担当制、遊び、食事、情緒の安定、睡眠、排泄
・食事や睡眠の時間を重視し、栄養管理や安全管理を行いながら、家庭的な雰囲気を作り出している。これにより、こどもは健康的に成長する。 ・発達に合わせた環境設定を工夫し、安心して過ごせるようにしている。	安心、安全、食事、
・こどもの思いを汲み取り、担任が安心できる場所となるようにしている。これにより、こどもは心地よく過ごし、自己表現を促進している。 ・ゆったりと過ごす環境を心掛け、遊びを通じてこどもたちとの関係を大切に築いている。	安心、遊び
・職員全体でこどもの個性を理解し、保育士同士で連携を密にしてプラスの関わりを実現している。 ・安心できる環境を提供するために、保育を見直し、こどもの興味を引き出している。	安心
・保護者との対話を丁寧に行い、安心できる環境を提供している。 ・担当制を遂行していないが、こどもが求めた職員が関わられるよう臨機応変に対応している。	安心、担当制、保護者
・担当制の保育を導入し、職員の意識改革を行った。 ・保育の質を向上させるために、職員間での対話と振り返りを重視し、	担当制、保護者

保護者に対して担当制の意義を丁寧に説明している。	
・ 保育者が愛着の対象となるために、保育所とこどもの間に愛情を持てる環境を重視している。これを実現するために、以下の取り組みを行っている： ・ 安全計画の詳細なルールを作成し、救急対応訓練を毎月実施することで、乳児保育のリスクを正しく理解し、不安と緊張を軽減する ・ 記録・書類業務の負担を減らすため、指導計画を長期と短期に変更し、保育者の負担を軽減している。 ・ 人員の充足を図り、責任者が定期的に巡回することで、組織的なサポートを提供している。	愛着、安全
・ こどもが自分の好きなことを選び、遊びを通じて心地よさを大切にしている。 ・ 保護者にも丁寧に説明し、こどもの人権を尊重する姿勢を示している。	保護者、遊び

Q32 Q32 から Q37 の質問は、保育所保育指針第 2 章「保育の内容」1 歳以上 3 歳未満児の保育について伺います。以下の項目は、保育所保育指針の 5 領域のうち「健康」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育士等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする	12,398	89.7	899	6.5
2	食事や午睡、遊びと休息など、保育所における生活のリズムが形成される	11,505	83.3	1,127	8.2
3	走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ	10,494	76.0	1,224	8.9
4	様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ	9,908	71.7	1,951	14.1
5	身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く	10,446	75.6	874	6.3
6	保育士等の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする	10,262	74.3	738	5.3
7	便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる	9,092	65.8	2,238	16.2
8	あてはまるものはない	340	2.5	9,250	67.0
	全体	13,815	—	13,815	—

※本質問は、Q8 で 1 歳児あるいは 2 歳児が 1 名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8 であ 1 歳児あるいは 2 歳児が 1 名以上在籍すると回答した園 13,815 施設において、保育所保育指針第 2 章「保育の内容」1 歳以上 3 歳未満児の保育について、保育所保育指針の 5 領域のうち「健康」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において「かなり重視して取り組んでいる」は「保育士等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする」が最も多く 89.7% (12,398 施設)、次に「食事や午睡、遊びと休息など、保育所における生活のリズムが形成される」は 83.3% (11,505 施設) であった。一方、難しさを感じているのは、「便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる」が 16.2% (2,238 施設) で最も多く、次に「様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ」が 14.1% (1,951 施設) であった。

Q33 以下の項目は、保育所保育指針の5領域のうち「人間関係」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育士等や周囲の子ども等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる	11,601	84.0	965	7.0
2	保育士等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす	11,848	85.8	1,368	9.9
3	身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもと関わりをもって遊ぶ	10,007	72.4	1,093	7.9
4	保育士等の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身につける	11,095	80.3	1,346	9.7
5	保育所の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く	9,953	72.0	1,834	13.3
6	生活や遊びの中で、年長児や保育士等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする	9,555	69.2	901	6.5
7	あてはまるものはない	379	2.7	10,038	72.7
	全体	13,815	—	13,815	—

※本質問は、Q8で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園13,815施設において、保育所保育指針の5領域のうち「人間関係」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において「かなり重視して取り組んでいる」は「保育士等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす」が最も多く85.8%（11,848施設）、次に「保育士や周囲の子ども等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる」が84.0%（11,601施設）であった。一方、難しさを感じているのは、「保育所の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く」が13.3%（1,834施設）で最も多かった。

Q34 以下の項目は、保育所保育指針の5領域のうち「環境」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする	11,651	84.3	1,225	8.9
2	玩具、絵本、遊具などに興味をもちそれらを使った遊びを楽しむ	10,954	79.3	610	4.4
3	身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く	9,545	69.1	1,142	8.3
4	自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ	9,125	66.1	1,562	11.3
5	身近な生き物に気付き、親しみをもつ	9,647	69.8	1,894	13.7
6	近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ	9,252	67.0	1,984	14.4
7	あてはまるものはない	550	4.0	9,159	66.3
	全体	13,815	—	13,815	—

※本質問は、Q8で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園 13,815 施設において、保育所保育指針の5領域のうち「環境」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において「かなり重視して取り組んでいる」は「安全で活動しやすい環境での探索活動等を通じて、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする」が最も多く 84.3% (11,651 施設)、次に「玩具、絵本、遊具などに興味をもちそれらを使った遊びを楽しむ」が 79.3% (10,954 施設) であった。一方、難しさを感じているのは、「近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ」が 14.4% (1,984 施設) で最も多く、次に「身近な生き物に気付き、親しみをもつ」が 13.7% (1,894 施設) であった。

Q35 以下の項目は、保育所保育指針の5領域のうち「言葉」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする	11,452	82.9	1,048	7.6
2	生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける	9,597	69.5	1,151	8.3
3	親しみをもって日常の挨拶に応じる	10,714	77.6	989	7.2
4	絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ	10,649	77.1	609	4.4
5	保育士等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ	10,319	74.7	732	5.3
6	保育士等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ	11,278	81.6	1,009	7.3
7	保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする	10,654	77.1	1,326	9.6
8	あてはまるものはない	452	3.3	10,710	77.5
	全体	13,815	—	13,815	—

※本質問は、Q8で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園13,815施設において、保育所保育指針の5領域のうち「言葉」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において「かなり重視して取り組んでいる」は「保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする」が最も多く82.9% (11,452施設)、次に「保育士等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ」が81.6% (11,278施設)であった。一方、難しさを感じているのは、「保育士等や友達の言葉や話に興味や関心を持って、聞いたり、話したりする」が9.6% (1,326施設)で最も多かった。

Q36 以下の項目は、保育所保育指針の5領域のうち「表現」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合(%)	数	割合(%)
1	水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ	11,110	80.4	1,030	7.5
2	音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ	10,525	76.2	788	5.7
3	生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ	10,373	75.1	1,109	8.0
4	歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする	11,099	80.3	592	4.3
5	保育士等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする	9,527	69.0	2,098	15.2
6	生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する	9,935	71.9	1,951	14.1
7	あてはまるものはない	551	4.0	9,884	71.5
	全体	13,815	—	13,815	—

※本質問は、Q8で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園13,815施設において、保育所保育指針の5領域のうち「表現」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において「かなり重視して取り組んでいる」は「水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ」が最も多く80.4%（11,110施設）、次に「歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする」が80.3%（11,099施設）であった。一方、難しさを感じているのは、「保育士等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする」が最も多く15.2%（2,098施設）、次に「生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する」が14.1%（1,951施設）であった。

Q37 1歳以上3歳未満児の保育を実施するにあたり、特に力を入れていたり、工夫していることがありましたら具体的に記入をしてください。（自由記述）

	キーワード	出現回数		キーワード	出現回数
1	遊び	1,179	6	言葉	369
2	環境	1,069	7	自分で	346
3	興味・関心	576	8	担当制	308
4	安心	520	9	やりたい・やってみたい	230
5	保護者	403	10	安全	223

保育士、こどもの出現回数はカウントしていない。

上記はSherpa AIを用いて、頻出ワードを抽出するテキスト分析を実施した結果である。

1歳以上3歳未満の保育に関する自由記述 5,246 件において、「遊び」「環境」「興味・関心」が使われた自由記述が多くみられた。

自由記述の例（抜粋および要約）	キーワード
・新入园児は発達や個人差、家庭の生活状況や習慣の違いから、食事や排泄は少人数に分けて丁寧に援助している。 ・運動面では体格の違いも考慮し、主活動を分ける工夫をしている。園生活に慣れた頃から同じ活動を行うが、個々の興味を尊重し、コーナー遊びを取り入れて遊びを広げている。 ・2歳児クラスではリトミックを取り入れ、保育士が音楽やリズムに合わせて歌い、こどもが自分の思いや体の動きを感じられるようにしている。	遊び、興味
・異年齢児との関わりを増やし、遊びの視野を広げ、楽しさや思いやりを感じられるようにし、職員全体で連携して一人の職員に固執しない体制を整えている。 ・職員全体でこどもの個性や特徴、興味を理解し、日々の様子を共有し合い、職員会議や毎日の振り返りを通じて保育の向上と職員間の連携を深めている。 ・保育士もアンガーマネジメントを行い、感情的になった際にはクールダウンを行い、こどもが目立った行動をした時には叱るのではなく、背景を考え受け止める関わりを心がけている。	遊び、興味
・季節の変化をテーマにしたプログラムを通じて、草花摘みや色水作り、虫取りなどを行い、植物の成長や自然界の美しい色や音に気づき、感性や知識を豊かにしたり、さまざまな体験を通じて、興味を広げている。 ・美しい言葉で語られるお話やかわいらしい歌を通じて、季節の変化や自然の豊かさを感じ取り、やわらかな心を育てることを目指してい	興味、保護者、言葉

る。保育所と家庭が協力し、こどもの興味を引き出しながら、豊かな心を育む保育を行っている。	
・一人一人の健康状態や生活リズムを把握し適切に対応する。 ・安定した生活リズムの中で、基本的な生活習慣を少しずつ身につけ意欲的に活動できるよう援助する。 ・一人一人のこどもの気持ちを受け止め保育士との触れ合いの中で安心して過ごせるようにする。 ・生活や遊びの中で自我が育つような関わりをもつ。	安心
・玩具の取り合いやケンカなどのトラブルが発生した場合、保育士は事前に回避せずに様子を見守り、トラブルが起きた際に仲裁して互いの思いを出し合うように促している。 ・保育士同士で一連の流れを話し合い、後に保護者からの問い合わせに対応できるようにしている。	保護者

Q38 Q38 から Q43 の質問は、保育所保育指針第 2 章「保育の内容」3 歳以上児の保育について伺います。以下の項目は、保育所保育指針の 5 領域のうち「健康」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育士等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する	10,645	79.4	695	5.2
2	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	10,814	80.7	679	5.1
3	進んで戸外で遊ぶ	10,174	75.9	886	6.6
4	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む	10,460	78.1	568	4.2
5	保育士等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ	10,112	75.5	946	7.1
6	健康な生活のリズムを身に付ける	9,577	71.5	1,549	11.6
7	身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排せつなどの生活に必要な活動を自分でする	10,259	76.6	772	5.8
8	保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する	9,646	72.0	1,749	13.1
9	自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う	7,882	58.8	2,203	16.4
10	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する	9,933	74.1	2,252	16.8
11	あてはまるものはない	347	2.6	8,090	60.4
	全体	13,399	—	13,399	—

※本質問は、Q8 で 3 歳児、4 歳児、5 歳児のいずれかが 1 名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8 で 3 歳児、4 歳児、5 歳児のいずれかが 1 名以上在籍すると回答した園 13,399 施設において、保育所保育指針の 5 領域のうち「健康」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において「かなり重視して取り組んでいる」は「いろいろな遊びの中で十分に体を動かす」が最も多く 80.7% (10,814 施設)、次に「保育士等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する」が 79.4% (10,645 施設) であった。一方、難しさを感じているのは、「危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する」が最も多く 16.8% (2,252 施設)、次に「自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う」が 16.4% (2,203 施設) であった。

Q39 以下の項目は、保育所保育指針の5領域のうち「人間関係」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育士等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう	10,408	77.7	445	3.3
2	自分で考え、自分で行動する	9,921	74.0	2,378	17.7
3	自分でできることは自分でする	9,989	74.6	851	6.4
4	いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする 気持ちをもつ	9,758	72.8	877	6.5
5	友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う	9,515	71.0	817	6.1
6	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに 気付く	10,516	78.5	2,230	16.6
7	友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう	9,924	74.1	745	5.6
8	友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫 したり、協力したりなどする	9,854	73.5	965	7.2
9	よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動 する	9,809	73.2	1,876	14.0
10	友達との関わりを深め、思いやりをもつ	10,375	77.4	919	6.9
11	友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き守ろう とする	10,026	74.8	1,099	8.2
12	共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う	8,858	66.1	1,278	9.5
13	高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深い いろいろな人に親しみをもつ	6,150	45.9	4,489	33.5
14	あてはまるものはない	371	2.8	6,128	45.7
	全体	13,399	—	13,399	—

※本質問は、Q8で3歳児、4歳児、5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8で3歳児、4歳児、5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園13,399施設において、保育所保育指針の5領域のうち「人間関係」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において「かなり重視して取り組んでいる」は「自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく」が最も多く78.5%（10,516施設）、次に「保育士等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう」が77.7%（10,408施設）であった。一方、難しさを感じているのは、「高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ」が最も多く33.5%（4,489施設）、次に「自分で考え、自分で行動する」が17.7%（2,378施設）であった。

Q40 以下の項目は、保育所保育指針の5領域のうち「環境」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	自然に触れて生活しその大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く	9,908	73.9	916	6.8
2	生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	8,947	66.8	975	7.3
3	季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く	9,617	71.8	748	5.6
4	自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ	10,116	75.5	790	5.9
5	身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付 き、いたわったり、大切にしたりする	9,717	72.5	1,523	11.4
6	日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や 伝統に親しむ	7,002	52.3	2,793	20.8
7	身近な物を大切にする	9,910	74.0	1,117	8.3
8	身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べた り、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫 して遊ぶ	9,040	67.5	1,190	8.9
9	日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	8,486	63.3	951	7.1
10	日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ	8,223	61.4	953	7.1
11	生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ	6,662	49.7	1,996	14.9
12	保育所内外の行事において国旗に親しむ	4,287	32.0	4,291	32.0
13	あてはまるものはない	546	4.1	6,095	45.5
	全体	13,399	—	13,399	—

※本質問は、Q8で3歳児、4歳児、5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8で3歳児、4歳児、5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園13,399施設において、保育所保育指針の5領域のうち「環境」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において「かなり重視して取り組んでいる」は「自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ」が最も多く75.5%（10,116施設）、次に「身近な物を大切にする」が74.0%（9,910施設）であった。一方、難しさを感じているのは、「保育所内外の行事において国旗に親しむ」が最も多く32.0%（4,291施設）、次に「日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」が20.8%（2,793施設）であった。

Q41 以下の項目は、保育所保育指針の5領域のうち「言葉」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする	10,624	79.3	717	5.4
2	したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	10,550	78.7	1,353	10.1
3	したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする	10,717	80.0	1,652	12.3
4	人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	9,317	69.5	3,052	22.8
5	生活の中で必要な言葉が分かり、使う	9,644	72.0	729	5.4
6	親しみをもって日常の挨拶をする	10,363	77.3	846	6.3
7	生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	7,863	58.7	1,764	13.2
8	いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする	9,331	69.6	1,344	10.0
9	絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう	10,129	75.6	649	4.8
10	日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう	7,632	57.0	1,504	11.2
11	あてはまるものはない	438	3.3	8,070	60.2
	全体	13,399	—	13,399	—

※本質問は、Q8で3歳児、4歳児、5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8で3歳児、4歳児、5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園13,399施設において、保育所保育指針の5領域のうち「言葉」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において「かなり重視して取り組んでいる」は「したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする」が最も多く80.0%（10,717施設）、次に「保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする」が79.3%（10,624施設）であった。一方、難しさを感じているのは、「人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す」が最も多く22.8%（3,052施設）、次に「生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く」が13.2%（1,764施設）であった。

Q42 以下の項目は、保育所保育指針の5領域のうち「表現」に示される「内容」です。こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ	9,585	71.5	746	5.6
2	生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする	8,485	63.3	1,931	14.4
3	様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう	8,840	66.0	1,652	12.3
4	感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする	9,337	69.7	1,601	11.9
5	いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ	10,047	75.0	909	6.8
6	音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう	9,591	71.6	906	6.8
7	かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする	10,363	77.3	580	4.3
8	自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう	8,907	66.5	1,627	12.1
9	あてはまるものはない	615	4.6	8,971	67.0
	全体	13,399	—	13,399	—

※本質問は、Q8で3歳児、4歳児、5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q8で3歳児、4歳児、5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園13,399施設において、保育所保育指針の5領域のうち「表現」に示される「内容」で、こどもの姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において「かなり重視して取り組んでいる」は「かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする」が最も多く77.3%（10,363施設）、次に「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」が75.0%（10,047施設）であった。一方、難しさを感じているのは、「生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」が最も多く14.4%（1,931施設）、次に「様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう」が12.3%（1,652施設）であった。

Q43 3歳以上児の保育を実施するにあたり、特に力を入れていたり、工夫していることがありましたら具体的に記入をしてください。（自由記述）

	キーワード	出現回数		キーワード	出現回数
1	遊び	1,141	6	表現	300
2	異年齢	626	7	やりたい・やってみたい	272
3	こども主体・主体性・自主性	506	8	運動	234
4	言葉	374	9	自分で考え	213
5	興味・関心	346	10	自分の思い	168

保育士、こどもの出現回数はカウントしていない。

上記はSherpa AIを用いて、頻出ワードを抽出するテキスト分析を実施した結果である。

3歳以上児の保育の実施に関する自由記述 5,178 件においては、「遊び」「異年齢」「こども主体・主体性・自主性」を含む自由記述が多くみられた。

自由記述の例（抜粋および要約）	キーワード
・ 戸外遊びや様々な体験を通じて興味関心を持たせ、自分が考えることを言葉で伝えられるようにしています。 ・ 友達との関わりを重視し、自己主張だけでなく相手の気持ちを考える保育を実施している。職員同士の関わり合いが良い見本であると考えている。	遊び、言葉、興味・関心
・ 多くの絵本に触れることにより、想像力を豊かにし表現力を養っている。また、絵本の世界を遊びに取り入れ、自然に言葉への興味が深まるよう工夫している。 ・ 園内菜園で、定期的に農家に指導をしてもらいながら、こども自身が、野菜や果物を育てる体験を通じて食材に興味をもてるよう工夫をしている。取れた食材を通じて日本の四季を感じ取り、栄養士は食材をテーマとした遊びの準備を、調理師は、給食の食材に取り入れて調理をするなど、身近の体験を通じて、食べ物に興味をもってもらう工夫をしている。	遊び、表現、興味
・ こどもたちが自分で選んで遊べる環境を保障し、何を・誰と・どの場所で遊ぶかを選ぶことを大切にしている。 ・ 幼児期には、異年齢児と一緒に過ごすことで社会性を身につけることができる。 ・ 異なる国籍や文化のこどもたちが交流し、多様性を受け入れる環境を提供している。	遊び、異年齢、自分の思い
・ 3歳以上のこどもたちが主体的に園での生活を創り上げることを意識した保育を実践している。サークルタイムでこどもたちが日々の生活を計画し、また、異年齢保育を取り入れている。異年齢保育がこども	異年齢、主体性（主体的）

たちの育ちに良い効果を与えることを実感している。	
・ 保育所の保育を家庭と協力して行い、小学校以降の生活や学習の基盤を育成している。幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培っている。	主体性（主体的）
・ 食事は一人一人のタイミングで摂ることを推奨し、楽しく摂れるよう工夫している。 ・ 自主性・意欲・思いやりを中心に保育を行い、こどもたちの話し合いでトラブルを解決している。 ・ 保育士の愛情に満ちた保育が何よりスタートであると認識している。	自主性
・ 3歳児は生活習慣や基盤を身につけるため、一つ一つ丁寧に言葉をかけるようにしている。また、集団行動の基本的動きを伝え、皆で一緒に揃えることなどを教えていくようにしている。 ・ 4歳児はルールや約束があることを伝え、危険のない行動をしっかりと教えていく。自分の思いを言葉で伝えたり、友だちの気持ちに気づけるように、また先生との会話も楽しい時間となるよう一人一人と丁寧に対峙する。 ・ 5歳児は早朝になるべく戸外に出て遊ぶ時間を作り、身体を動かして気持ちの切り替えができるようにしている。自分で考えて行動ができ、自信を持って活動に取り組めるよう言葉掛けに努めている。	言葉
・ 保育 ICT の利用により、保育の事務作業を簡略化し、保護者への動画配信やサークルタイムを通じてこどもたちのやりたいことを実現している。 ・ こどもたちの達成感を感じる行事を実施し、保護者からも好評を得ている。保育の ICT 活用により、保育士と保護者の双方が満足する保育を目指している。	やりたい

Q44 こどもが身体を大きく動かす遊びをするために、貴園で活用されている場所をすべて選択してください。

	内容	数	割合（％）
1	園庭	12,673	90.6
2	遊戯室（ホール等）	10,124	72.4
3	公園	9,659	69.1
4	保育室	8,676	62.0
5	公共施設（スポーツ施設・体育館等）	2,042	14.6
6	その他	1,021	7.3
	全体	13,983	－

こどもが身体を大きく動かす遊びをするために園で活用している場所について、「園庭」が最も

多く 90.6% (12,673 施設)、次いで「遊戯室（ホール等）」が 72.4% (10,124 施設) で、「公園」が 69.1% (9,659 施設) であった。

Q45 貴園で保有している絵本等の冊数を教えてください。

	内容	数	割合 (%)
1	50冊未満	167	1.2
2	50～100冊未満	1,260	9.0
3	100～300冊未満	4,645	33.2
4	300～500冊未満	3,021	21.6
5	500～1,000冊未満	2,657	19.0
6	1,000～1,500冊未満	1,122	8.0
7	1,500～2,000冊未満	453	3.2
8	2,000冊以上	658	4.7
	全体	13,983	100.0

園で保有している絵本等の冊数について、「100～300 冊未満」が最も多く 33.2% (4,645 施設)、次いで「300～500 冊未満」が 21.6% (3,021 施設) で、「500～1000 冊未満」が 19.0% (2,657 施設) であった。

Q46 こどもが絵本や物語に触れる機会が増えるように、貴園で行われていることをすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	興味のある活動に関する絵本を準備している	12,304	88.0
2	絵本や物語を題材にした劇や遊びをしている	11,062	79.1
3	保育士等が絵本を借りてこどもに読み聞かせをするなど、園の近隣地域にある図書館等を活用している	8,083	57.8
4	民間団体や地域ボランティアによるおはなし会や読み聞かせ会をしている	4,106	29.4
5	読み聞かせの楽しさや読書の重要性について、保護者の理解が促進される機会を設けている（講演会等）	2,822	20.2
6	地域の図書館や小学校の学校図書館をこどもと訪問している	2,620	18.7
7	絵本等の読み聞かせ等を通して小中学生と交流している	1,434	10.3
8	その他	1,720	12.3
9	特に工夫はしていない	97	0.7
	全体	13,983	—

こどもが絵本や物語に触れる機会が増えるように行われていることについて、「興味のある活動に関する絵本を準備している」が 88.0% (12,304 施設)、「絵本や物語を題材にした劇や遊びをしている」が 79.1% (11,062 施設) であった。一方でボランティアによる読み聞かせ会、講演会等、図書館への訪問、小中学生との読み聞かせ等による交流は 29.4% と少なかった。

Q47 保育の場面で使用する園の ICT・デジタル機器に係る環境について、貴園で利用されているものをすべてお選びください。※職員個人の私物は含まず、貴園で保有（リースを含む）されているものに限定して回答してください。※こども自身が直接操作しないが、こどもが写真や動画、音声を見たり聞いたりする場合も含んでお答えください。

	内容	数	割合（％）
1	保育で使用するパソコン	8,870	63.4
2	保育で使用するタブレット	7,844	56.1
3	保育で使用する映像ディスプレイ	4,047	28.9
4	保育で使用するスマートフォン	3,725	26.6
5	幼児向けに開発されたアプリケーションソフト	950	6.8
6	その他	521	3.7
7	ICT・デジタル機器を導入していない	2,377	17.0
	全体	13,983	－

ICT・デジタル機器の活用については、「保育で使用するパソコン」63.4％（8,870 施設）が最も多く、まだ普及の余地が残されていることが示されている。また、その他の中にも「ICT・デジタル機器を導入・使用していない」旨のコメントが含まれていた。

Q48 保育の場面で ICT・デジタル機器を活用する際、どのような目的で活用していますか。あてはまるものをすべて選択してください。

	内容	数	割合（％）
1	見返したり友達や保育士と共有したりするための記録（写真や動画、音声等）をするため	7,964	68.6
2	興味や関心をもった事柄について調べたりするため	5,118	44.1
3	表現活動のツールとして活用するため	3,443	29.7
4	離れたところの人とコミュニケーションをとったり、場を共有したりするため	2,609	22.5
5	身近な物や生き物等を観察するため	1,974	17.0
6	その他	1,004	8.7
7	保育の場面で ICT・デジタル機器を活用していない	1,400	12.1
	全体	11,606	－

※本質問は、Q47で「ICT・デジタル機器を活用している」と回答（7：「保育の場面で ICT・デジタル機器を活用していない」以外）した園11,606件を対象にしている

保育の場面における ICT・デジタル機器の活用する際の目的については、「共有や見返すための記録」が 68.6％（7,964 施設）、「興味や関心を持ったことを調べる」が 44.1％（5,118 施設）であるが、それ以外の項目はすべて 30％を下回っており、活用の場面が限られていることが示されている。また、「その他」の中にも「保育の場面で ICT・デジタル機器を活用していない」旨のコメントが含まれていた。

Q49 ICT・デジタル機器を活用して保育を実施した際に、想定していたような活動にならなかったり、乳幼児の発達にふさわしくなかったりしたことがあれば、具体的にお答えください。

Q48で「保育の場面で、ICT・デジタル機器を活用していない」と回答した園を除き、1,782の自由記述があったが、そのうちの818が「特になし」などの質問に該当するケースがなかった旨の記述、297件が「活用していない」「保護者との連絡や書類の作成で活用しているが、保育においては活用していない」などの保育での活用がない、あるいは限定的である旨の記述であった。それ以外の記述の中で、ICT・デジタル機器を保育で活用した結果、想定していたような活動にならなかったり、幼児期の発達にふさわしくなかったことに触れている記述を以下に抜粋および要約し記載する。

自由記述の例（抜粋および要約）
・デジタルで見えること知ったことで満足して（知った気になる）実際の行動と伴わないことが多くあることに危険性を感じている。特に生き物を育てることや自然の中での作物が私たちの食卓に上がるまでの努力や手入れ、生き物（命）を繋ぐ作業がどのように行われているのかなど命の重さが分からない子が増えていると実感する。
・既に決まった映像記録のため、こどもの興味関心に100%合ったものでないケースがある。
・検索のタイミングで不適切な画像や広告がこどもの目に入ってしまうことがある。
・実際の物と違い平面的で匂いなどの情報がない。
・報道や番組・動画編集者の固定概念が保育内容に沿わないものであることがある。
・探し出す過程が省略されているため、情報に対する有難みがこどもの中にも薄いように感じている。
・個人情報保護の観点から、保育園の実態報告等場合によっては、写真や動画を使用することがあると承諾書にサインをいただいている、かつ、個人が特定されないように、容姿にモザイク処理を施すなど配慮をしているにもかかわらず、保護者からクレームが時々ある。
・タブレットを職員間で活用しながら保育を行う際に、こどもが無断で使用をして注意すると癇癪をおこすなど、頭では理解していてもルールを破ってしまう中毒性がタブレットにはあるということを職員間で共有している。
・基本的にはこども達が操作をしないが、タブレットで音楽をかけたり遊戯を見たりする際、それが終了してもタブレットにかじりついて離れない子が多い。
・何かを調べる際に、こどもたちから、「携帯で調べて」と促される。わからないことや、調べたいことを、本で調べたり、人に聴いたりすることも大事にしたいが、こどもたちから、「すぐ」「今」のような、タイムパフォーマンスを求められる。
・タブレットで幼児向け学習アプリを利用しているが、適当に操作していればいずれは正解にたどり着くので、こどもによっては自分で考える力が育たない 正解がわからなくても隣の子をみれば操作自体がわかってしまうので、操作ばかりが上達し、学びにつながらない。

・タブレットを活用した保育を行おうとした際に、3歳以上児クラスは家庭でも使用し慣れていることから、タブレットばかりに集中し、タブレットで動画を見たい(youtube)など、保育計画にはない想定外の要望が出てくることがある。

・タブレットを使用したプログラミング活動を行っているが、こどもたちが日常的にスマホやタブレットに触れ、操作に慣れすぎていることで、指示や活動の進行よりも先に先にとやってしまう。

Q50 小学校との連携のための取組をすべて選択してください（今後の予定を含む）。

	内容	数	割合（％）
1	こどもと小学校の児童との交流活動	9,592	68.6
2	保育士による小学校の授業参観	7,988	57.1
3	保育士と小学校の教職員との合同研修会や研究会の開催	6,265	44.8
4	小学校の教職員による園の保育参観	5,632	40.3
5	小学校教育との接続を意識した全体的な計画や指導計画の作成	5,495	39.3
6	小学校との連携・接続の担当に関する業務分掌を明確にすること	3,741	26.8
7	小学校と協同して、接続を意識したカリキュラムを編成・実施	3,461	24.8
8	その他	1,001	7.2
9	小学校との連携の取組を実施していない	821	5.9
	全体	13,983	－

小学校との連携のための取組については、「こどもと児童との交流活動」「保育士による小学校の授業参観」はそれぞれ 68.6％（9,592 施設）、57.1％（7,988 施設）だが、それ以外の項目については 50％を下回っている。

Q51 小学校との情報共有において、実施していることをすべて選択してください。

	内容	数	割合（％）
1	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用し、小学校へ入学する幼児の育ちについて説明	6,421	45.9
2	小学校での生活を見通した年長児の活動に関して小学校教員が助言・協力	3,133	22.4
3	保育所児童保育要録を電子化して小学校へ送付	2,356	16.8
4	スタートカリキュラムの作成に関して保育士が助言・協力	2,223	15.9
5	その他	2,896	20.7
6	保育所児童保育要録の紙での送付以外、特段の情報共有はしていない	3,007	21.5
	全体	13,983	－

小学校との情報共有については、最も多い「小学校へ入学する幼児の育ちについて説明」が 45.9％（6,421 施設）と 50％を下回っている。

Q52 保育所保育において、こどもの健康及び安全の確保は、こどもの生命の保持と健やかな生活の基本であり、一人一人のこどもの健康の保持及び増進並びに安全の確保とともに、保育所全体における健康及び安全の確保に努めることが重要となります。保育所保育において、こどもの健康状態並びに発育及び発達の状態の把握について、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	保育士等による日々のこどもの心身の状態の観察	13,572	97.1
2	保護者から提供された、こどもの状態に関する情報	13,062	93.4
3	嘱託医と嘱託歯科医による定期的な健康診断の実施	13,017	93.1
4	一人一人のこどもの生育歴に関する情報の把握（母子健康手帳等の活用）	9,810	70.2
5	その他	286	2.0
6	重視している特定の項目はない	28	0.2
	全体	13,983	—

こどもの健康状況並びに発育及び発達の状態の把握について重視している項目は、「保育士等による日々のこどもの心身の状態の観察」が 97.1%（13,572 施設）と最も多く、次いで「保護者から提供されたこどもの状況に関する情報」が 93.4%（13,062 施設）、「嘱託医と嘱託歯科医による定期的な健康診断の実施」93.1%（13,017 施設）であり、いずれも 90%を超えている。

Q53 虐待対策として、取り組んでいる事項をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	職員間において、こどもの様子や状況の変化に関する気付きを共有すること	13,478	96.4
2	こどもの心身の状態の観察を通じて把握すること	13,305	95.2
3	送迎の機会等を通じて保護者の状況等を把握すること	12,647	90.4
4	市町村等や関係機関と情報共有等の連携を図ること	12,379	88.5
5	家庭での生活、養育の状態等を把握すること	11,933	85.3
6	マニュアルを作成するなどして基本的な対応の手順や内容等を明確にしておくこと	9,161	65.5
7	その他	173	1.2
	全体	13,983	—

虐待対策として取り組んでいる事項は、「職員間でのこどもの様子等に関する気付きの共有」96.4%（13,478 施設）が最も多く、次いで「こどもの心身の状態の把握」95.2%（13,305 施設）、「送迎の機会等を通じた保護者の状況等の把握」90.4%（12,647 施設）であり、いずれも 90%を超えている。

Q54 全体的な計画に基づいて年間の保健計画を作成し、発育及び発達に適した生活を送ることができるよう援助する必要があります。保健計画を作成する際に、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	基本的な清潔の習慣や健康な食生活が身に付くよう援助すること	11,822	84.5
2	睡眠、食事、遊びなどの一日を通した生活リズムを整えること	11,683	83.6
3	一人一人のこどもの生活のリズムや食習慣などを把握すること	10,858	77.7
4	こどもの健康をめぐる家庭との連携（健康状態や健康診断結果の報告、疾病時の看護の方法や感染予防の対応の伝達、保護者会を通した健康への理解を深める働きかけ等）を図ること	10,753	76.9
5	日常的な遊びなどを通して体力づくりができるよう工夫をすること	10,415	74.5
6	健康診断など、保健の活動についての記録と評価及びこれに基づく改善	10,301	73.7
7	発達過程に応じ、身体の動きや生命の大切さなどを伝えること	9,886	70.7
8	排泄面の自立を援助すること	8,888	63.6
9	その他	164	1.2
10	重視している特定の項目はない	164	1.2
	全体	13,983	—

保健計画を作成する際に重視している項目は、「基本的な清潔の習慣や健康な食生活が身に付くよう援助すること」84.5%（11,822 施設）が最も多く、次いで「睡眠、食事、遊びなどの一日を通した生活リズムを整えること」83.6%（11,683 施設）であった。

Q55 食は、こどもが豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくために、また、こどもの健康増進のために重要です。保育所の特性を生かした食育について、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	こどもが生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合うこどもに成長していくことを期待するものであること	12,658	90.5
2	こどもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちを育てること	11,233	80.3
3	乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育計画を全体的な計画に基づいて作成し、その評価及び改善に努めること	11,191	80.0
4	こどもと調理員等との関わりや、調理室など食に関わる保育環境に配慮すること	10,378	74.2
5	栄養士が配置されている場合は、専門性を生かした対応を図ること	8,359	59.8
6	保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働の下で、食に関する取組が進められること	5,935	42.4
7	市町村の支援の下に、地域の関係機関等との日常的な連携を図り、必要な協力が得られるよう努めること	4,220	30.2
8	その他	235	1.7
9	重視している特定の項目はない	85	0.6
	全体	13,983	—

保育所の特性を生かした食育について重視している項目は、「食べること、食事を楽しみ合うこどもに成長していくことを期待するものであること」90.5%（12,658 施設）が最も多く、次いで「こどもが食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちを育てること」80.3%（11,233 施設）であった。

Q56 安全計画の策定において、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	保育所等の施設・設備（備品・遊具等・防災設備・避難経路等）の安全点検について	13,087	93.6
2	睡眠中の窒息や誤飲等の事故防止対策について	12,911	92.3
3	プール活動及び水遊び中の事故防止対策について	12,440	89.0
4	食事の場面での誤嚥などによる窒息等の事故防止対策について	12,389	88.6
5	ヒヤリ・ハット事例の収集・分析及び対策とその共有	12,334	88.2
6	散歩等の園外活動中の事故防止対策について	12,144	86.8
7	研修や訓練の定期的な実施について	11,874	84.9
8	職員間の共通理解や体制づくりについて	11,810	84.5
9	園外環境の安全点検について	10,906	78.0
10	こどもに対する安全指導について	10,748	76.9
11	各種マニュアルの策定状況の確認	10,592	75.7
12	家庭での安全指導を促すなどこどもの安全に関する連携について	7,446	53.3
13	地域の関係機関との連携	7,128	51.0
14	保育所等のバス等による送迎サービスについて	1,730	12.4
15	その他	104	0.7
16	重視している特定の項目はない	36	0.3
	全体	13,983	—

安全計画の策定において重視している項目は、「保育所等の施設・設備の安全点検」93.6%（13,087 施設）が最も多く、次いで「睡眠中の窒息や誤飲等の事故防止対策」92.3%（12,911 施設）であった。

Q57 保育中の事故の発生の備えに関して、重視する項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	緊急時の対応マニュアルの作成	12,593	90.1
2	施設内外の危険個所の点検	12,549	89.7
3	緊急時の対応の具体的な内容及び手順	12,354	88.4
4	外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練	12,342	88.3
5	緊急時の保護者や関係機関への連絡内容や連絡先などの確認	12,321	88.1
6	職員の役割分担	12,310	88.0
7	事故発生時の対応に関する訓練の計画及び実施	11,585	82.9
8	地域の関係機関との連携	8,132	58.2
9	こどもの精神保健面における対応	6,679	47.8
10	近隣の住民や企業との連携	4,106	29.4
11	その他	50	0.4
12	重視している特定の項目はない	28	0.2
	全体	13,983	—

保育中の事故の発生の備えに関して重視している項目は、「緊急時の対策マニュアルの作成」

90.1%（12,593 施設）が最も多く、次いで「施設内外の危険個所の点検」89.7%（12,549 施設）であった。また、それ以外の「3」から「7」の5項目（上表参照）も80%を上回っている。

Q58 災害への備えに関して、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合（%）
1	避難訓練の計画及び実施	13,454	96.2
2	防火設備、避難経路等の安全性が確保されるよう、定期的な安全点検	12,758	91.2
3	職員の役割分担	12,594	90.1
4	緊急時の対応マニュアル作成	12,403	88.7
5	備品、遊具等の配置、適切な保管等の安全環境の整備	11,903	85.1
6	緊急時の対応の具体的内容及び手順	11,870	84.9
7	保護者との連絡体制や引渡し方法の確認	11,390	81.5
8	避難訓練における保護者との連携	9,091	65.0
9	避難訓練における地域の関係機関との連携	8,620	61.6
10	避難訓練以外での地域の関係機関との連携	6,205	44.4
11	近隣の住民や企業との連携	4,061	29.0
12	その他	83	0.6
13	重視している特定の項目はない	30	0.2
	全体	13,983	—

災害の備えに関して重視している項目は、「避難訓練の計画及び実施」96.2%（13,454 施設）が最も多く、次いで「防火設備、避難経路等の定期的な安全点検」91.2%（12,758 施設）、「職員の役割分担」90.1%（12,594 施設）で、いずれも90%以上である。また、それ以外の「4」から「7」の4項目（上表参照）において80%を上回っている。

また、Q55「食育」、Q56「安全計画の策定」Q57「事故への備え」Q58「災害への備え」に関して、全体的に地域の機関や住民との連携の取組の項目が少ない傾向がみられた。

Q59 災害の備えにおいて、日頃から地域のどのような関係機関と連携していますか。あてはまる項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合（%）
1	消防	11,381	81.4
2	警察	6,950	49.7
3	自治体の防災部局 （都道府県・市町村の別、また、本庁・支所の別は問わない）	6,892	49.3
4	小・中学校等	6,018	43.0
5	医療機関	5,215	37.3
6	他の保育施設（幼稚園を含む）	4,725	33.8
7	自治会	3,685	26.4
8	その他	651	4.7
9	連携はしていない	481	3.4
	全体	13,983	—

災害時への備えにおいて、日ごろから連携している関係機関は、「消防」81.4%（11,381 施設）が最も多い。その他の機関はすべて 50%を下回っており、「連携はしていない」も 3.4%（481 施設）あった。

Q60 保育所を利用している保護者に対する子育て支援について保育活動への保護者の積極的な参加を促すために、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	保護者がこどもの発達についての見通しがもてるようになること	11,311	80.9
2	保護者がこどもの接し方の気付きを得ること	10,585	75.7
3	保護者がこどもの遊びの世界や言動の意味を理解すること	9,114	65.2
4	保護者の自ら子育てを実践する力を高めること	8,296	59.3
5	保護者自身が気付かなかった子育てに対する有能感を感じられること	7,837	56.0
6	その他	277	2.0
7	重視している特定の項目はない	330	2.4
	全体	13,983	—

保護者に対する子育て支援について保育活動への積極的な参加を促すために重視している項目は、「保護者がこどもの発達についての見通しがもてるようになること」80.9%（11,311 施設）が最も多く、次いで「保護者がこどもの接し方の気付きを得ること」75.7%（10,585 施設）であった。

Q61 地域の保護者に対する子育て支援について、貴園で実施している事項をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	相談対応	10,436	74.6
2	園舎や園庭の開放	8,627	61.7
3	情報提供（子育て講座の開催など）	6,215	44.4
4	地域の子育て家庭が使える預かり事業（一時預かり等）	5,695	40.7
5	子育て支援に関する地域の関係者との連携 （ボランティア団体、子育て支援団体、子育てサークルなど）	4,575	32.7
6	その他	802	5.7
7	特にない	827	5.9
	全体	13,983	—

地域の保護者に対して実施している子育て支援は、「相談対応」74.6%（10,436 施設）が最も多く、次いで「園舎や園庭の開放」61.7%（8,627 施設）であった。一方で「子育て支援に関する地域の関係者との連携」は 32.7%（4,575 施設）と少なかった。

(2) 認定こども園向け調査

※選択肢文が長い場合は、説明文を一部省略して記している。

Q1 貴園が設置されている都道府県を選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	北海道	434	7.0
2	青森県	230	3.7
3	岩手県	120	1.9
4	宮城県	114	1.8
5	秋田県	95	1.5
6	山形県	59	1.0
7	福島県	92	1.5
8	茨城県	105	1.7
9	栃木県	88	1.4
10	群馬県	138	2.2
11	埼玉県	88	1.4
12	千葉県	132	2.1
13	東京都	84	1.4
14	神奈川県	112	1.8
15	新潟県	193	3.1
16	富山県	138	2.2
17	石川県	175	2.8
18	福井県	117	1.9
19	山梨県	59	1.0
20	長野県	80	1.3
21	岐阜県	118	1.9
22	静岡県	246	4.0
23	愛知県	223	3.6
24	三重県	59	1.0

	内容	数	割合 (%)
25	滋賀県	86	1.4
26	京都府	92	1.5
27	大阪府	497	8.1
28	兵庫県	448	7.3
29	奈良県	62	1.0
30	和歌山県	59	1.0
31	鳥取県	50	0.8
32	島根県	56	0.9
33	岡山県	141	2.3
34	広島県	167	2.7
35	山口県	25	0.4
36	徳島県	62	1.0
37	香川県	82	1.3
38	愛媛県	67	1.1
39	高知県	23	0.4
40	福岡県	115	1.9
41	佐賀県	53	0.9
42	長崎県	97	1.6
43	熊本県	75	1.2
44	大分県	117	1.9
45	宮崎県	123	2.0
46	鹿児島県	220	3.6
47	沖縄県	156	2.5
	全体	6,172	100.0

Q2 施設の所在地をご記入ください。市区町村以下の住所をご記載ください。

Q3 事業所番号をご記入ください。(事業所番号は封筒の宛名右下に記載の 13 桁の数字です。ゼロから始まる番号の場合はゼロからご記入ください。)

Q4 施設名をご記入ください。

Q2 から Q4 の回答数はすべて 6,172 である。

Q5 施設類型を選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	保育所型	1,108	18.0
2	幼保連携型	5,002	81.0
3	地方裁量型	62	1.0
	全体	6,172	100.0

園の施設類型は、幼保連携型が 81.0% (5,002 施設)、保育所型が 18.0% (1,108 施設)、地方裁量型が 1.0% (62 施設) であった。

Q6 貴園の設置主体を選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	公設公営 (※国立を含む)	1,109	18.0
2	公設民営	404	6.5
3	民設民営	4,659	75.5
	全体	6,172	100.0

園の経営主体は、民設民営が 75.5% (4,659 施設)、公設公営が 18.0% (1,109 施設)、公設民営が 6.5% (404 施設) であった。

Q7 貴園の経営主体を選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	社会福祉法人	3,548	70.1
2	学校法人	1,323	26.1
3	特定非営利活動法人 (NPO)	36	0.7
4	営利法人 (株式会社等)	92	1.8
5	その他	64	1.3
	全体	5,063	100.0

Q6 で公設民営、民設民営と回答した 5,063 施設のうち、その経営主体で最も多いのは社会福祉法人で 70.1% (3,548 施設)、次いで学校法人 26.1% (1,323 施設) であった。

Q8 本調査に回答いただく、あなたの役職をお選びください。

	内容	数	割合 (%)
1	園長・施設長	4,487	72.7
2	副園長・副施設長・教頭	1,045	16.9
3	その他	640	10.4
	全体	6,172	100.0

本調査に回答頂いた人の役職は、園長・施設長が72.7%（4,487施設）であった。

Q9 令和6年10月1日時点の在籍数をご回答ください。在籍していない場合は0を入力してください。

	全体	合計	平均	最小値	最大値	中央値
0歳児（令和5年4月2日生まれ～）	6,172	41,180	7	0	77	6
1歳児（令和4年4月2日～令和5年4月1日生まれ）	6,172	85,940	14	0	87	13
2歳児（令和3年4月2日～令和4年4月1日生まれ）：1号認定	6,172	10,482	2	0	59	0
2歳児（令和3年4月2日～令和4年4月1日生まれ）：2号認定	6,172	28,922	5	0	42	0
2歳児（令和3年4月2日～令和4年4月1日生まれ）：3号認定	6,172	68,631	11	0	151	10
3歳児（令和2年4月2日～令和3年4月1日生まれ）：1号認定	6,172	40,928	7	0	123	4
3歳児（令和2年4月2日～令和3年4月1日生まれ）：2号認定	6,172	110,044	18	0	79	17
4歳児（平成31年4月2日～令和2年4月1日生まれ）：1号認定	6,172	43,458	7	0	135	4
4歳児（平成31年4月2日～令和2年4月1日生まれ）：2号認定	6,172	115,024	19	0	93	18
5歳児（平成30年4月2日～平成31年4月1日生まれ）：1号認定	6,172	46,081	7	0	137	4
5歳児（平成30年4月2日～平成31年4月1日生まれ）：2号認定	6,172	118,882	19	0	233	18

認定こども園の規模が多様であるため参考値となるが、各年齢の在籍数について、0歳児は平均7人（1園あたり）、1歳児は平均14名（1園あたり）、2歳児は18名（1園あたりで、1号認定2名、2号認定5名、3号認定11名）、3歳児から5歳児は平均25名前後（1園あたりで、1号認定7名、2号認定18、19名）であった。

Q10 ここからは教育及び保育の計画及び評価についてお聞きします。全体的な計画を作成するにあたり、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	園児の発達の各時期にふさわしい生活が展開されるように適切なねらいと内容を設定すること	5,168	83.7
2	園生活の全体を通して園児がどのような発達をするのか、どの時期にどのような生活が展開されるのか等の発達の節目を探り、長期的に発達を見通すこと	5,133	83.2
3	乳幼児期の発達、乳幼児期から児童期への発達についての共通理解を図ること	4,884	79.1
4	園や地域の実態、園児の発達の実情などを把握すること	4,097	66.4
5	全体的な計画に基づく保育の経過や結果について省察、評価し、課題を明確化すること	4,080	66.1
6	園児の発達の過程に応じて教育及び保育の目標がどのように達成されていくかについておよそ予測すること	4,042	65.5
7	関係法令、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同要領解説等の内容の基本について、教職員間の共通理解を図ること	4,029	65.3
8	改善に向けた取組の方向性を教職員間で共有し、次の作成に生かすこと	3,779	61.2
9	教育及び保育並びに子育ての支援等の目標についての理解を深めること	3,680	59.6
10	教育及び保育並びに子育ての支援等が果たさなければならない課題や期待する園児像を明確にすること	3,416	55.3
11	教育及び保育の時間の長短、在籍期間の長短、その他こどもの発達や心身の状態及び家庭の状況に配慮すること	3,190	51.7
12	社会の要請や保護者の願いなどを把握すること	2,831	45.9
13	その他	70	1.1
14	重視している特定の項目はない	19	0.3
	全体	6,172	—

全体的な計画を作成するにあたり重視している事項は、「園児の発達の各時期にふさわしい生活が展開されるように適切なねらいと内容を設定する」が 83.7%（5,168 施設）と最も多く、次いで「園児の発達の節目を探り長期的に発達を見通す」83.2%（5,133 施設）、「乳幼児期の発達について共通理解を図る」79.1%（4,884 施設）であった。

Q11 長期的な指導計画はどのような単位で作成していますか。（複数選択可）

	内容	数	割合 (%)
1	毎月	4,037	65.4
2	期	2,409	39.0
3	半年	196	3.2
4	年	5,039	81.6
5	その他	91	1.5
	全体	6,172	—

長期的な指導計画は、年次では 81.6%（5,039 施設）、月次では 65.4%（4,037 施設）、期ごとでは 39.0%（2,409 施設）が作成している。

Q12 短期的な指導計画はどのような単位で作成していますか。（複数選択可）

	内容	数	割合（％）
1	日	2,866	46.4
2	週	5,472	88.7
3	2週間	348	5.6
4	その他	321	5.2
	全体	6,172	－

短期的な指導計画は、週次では 88.7％（5,472 施設）、日次では 46.4％（2,866 施設）が作成している。

Q13 指導計画を立てる際に「生命の保持」「情緒の安定」において重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	園児一人一人の平常の健康状態や発育及び発達の状態を的確に把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する	5,036	81.6
2	家庭との連携を密にし、学校医等との連携を図りながら、園児の疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める	4,361	70.7
3	清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通して園児の生理的欲求を満たしていく	4,985	80.8
4	家庭と協力しながら、園児の発達過程等に応じた適切な生活のリズムがつくられていくようにする	4,876	79.0
5	園児の発達の過程等に応じて、適度な運動と休息を取ることができるようにする	4,234	68.6
6	食事、排泄、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、園児が意欲的に生活できるよう適切に援助する	5,279	85.5
7	園児一人一人の置かれている状態や発達の過程などを的確に把握し、園児の欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉がけを行う	5,128	83.1
8	園児一人一人の気持ちを受容し、共感しながら、園児との継続的な信頼関係を築いていく	5,427	87.9
9	保育教諭等の信頼関係を基盤に、一人一人の園児が主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信をもつことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかける	5,105	82.7
10	園児一人一人の生活のリズム、発達過程、保育時間などに応じて、活動内容のバランスや調和を図りながら、適切な食事や休息がとれるようにする	4,682	75.9
11	その他	34	0.6
12	重視している特定の項目はない	13	0.2
	全体	6,172	—

指導計画を作成するにあたり、「生命の保持」「情緒の安定」において重視している項目は、「園児との継続的な信頼関係を築いていく」が 87.9%（5,427 施設）と最も多く、次いで「食事、排泄、衣類の着脱などについて、園児が意欲的に生活できるよう適切に援助する」が 85.5%（5,279 施設）、「園児の置かれている状態や発達の過程を把握し、園児の欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉がけを行う」が 83.1%（5,128 施設）であった。

Q14 3歳未満の園児の指導計画を作成するにあたって、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	保健及び安全面、心理面におけるきめ細やかな配慮について	4,843	80.8
2	出生時及び入園までの育児の状況、授乳や排泄、睡眠等の生活リズムやアレルギーなどの主に身体的な側面について	4,685	78.1
3	園児一人一人の発達が家庭と園との間で途切れることなく連続性をもつことについて	4,724	78.8
4	園児の状態や季節の変化などにより、月ごとの区分にも幅をもたせ、ゆったりとした保育を心掛けること	4,408	73.5
5	家庭における保護者と園児との関係などの精神的な側面について	3,929	65.5
6	特定の保育教諭等と園児がゆったりと関わり、情緒的な絆を深めること	3,923	65.4
7	保育教諭等・栄養教諭や栄養士・調理員・養護教諭や看護師等の教職員間の緊密な協力体制の構築をすること	3,834	63.9
8	その他	53	0.9
9	重視している特定の項目はない	24	0.4
	全体	5,996	—

3歳未満の園児の指導計画を作成するにあたり重視している項目は、「保健、安全面、心理面におけるきめ細やかな配慮」80.8%（4,843 施設）が最も多く、次いで「出生時及び入園までの状況や身体的側面」78.1%（4,685 施設）、「家庭と園との間の連続性」78.8%（4,724 施設）であった。

Q15 3歳以上の園児の指導計画を作成するにあたって、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	園児一人一人の主体性について	5,263	86.4
2	園児一人一人の個別の理解と配慮について	5,242	86.0
3	一緒に活動する楽しさを味わうことについて	5,091	83.6
4	協同して活動を展開することを通して仲間意識を増やしていくことについて	5,046	82.8
5	他の園児との様々な関わりをもつことについて	4,673	76.7
6	園児一人一人の持ち味や良さが生かされる集団の形成について	4,593	75.4
7	互いのよさに気付くことについて	4,132	67.8
8	その他	102	1.7
9	重視している特定の項目はない	20	0.3
	全体	6,092	—

3歳以上の園児の指導計画を作成するにあたり重視している項目は、「園児一人一人の主体性」86.4%（5,263 施設）が最も多く、次いで「園児一人一人の個別の理解と配慮」86.0%（5,242 施設）、「一緒に活動する楽しさを味わうこと」83.6%（5,091 施設）、「仲間意識を増やしていくこと」82.8%（5,046 施設）と続き、いずれは80%を上回っている。

Q16 日常の保育の中で異年齢で構成される組やグループでの活動を行っていますか。

	内容	数	割合 (%)
1	行っている	4,068	65.9
2	行っていない	2,104	34.1
	全体	6,172	100.0

日常の保育の中で異年齢で構成される組やグループでの活動を行っているかについて、「行っている」が 65.9% (4,068 施設) であった。

Q17 異年齢で構成される組やグループの指導計画を作成していますか。

	内容	数	割合 (%)
1	作成している	1,747	42.9
2	作成していない	2,321	57.1
	全体	4,068	100.0

Q16 で異年齢で構成される組やグループでの活動を「行っている」と回答した 4,068 施設のうち、異年齢で構成される組やグループの指導計画を「作成している」は 42.9% (1,747 施設)、「作成していない」は 57.1% (2,321 施設) であった。

Q18 異年齢で構成される組やグループの指導計画の作成にあたって、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	日々の教育及び保育の中で園児が自ら関わり合い、遊びを展開していけるような十分な配慮について	1,530	87.6
2	教育及び保育のねらいや内容を明確にもった適切な環境の構成や援助について	1,365	78.1
3	園児一人一人の生活や経験、発達過程などの把握について	1,234	70.6
4	その他	38	2.2
5	重視している特定の項目はない	9	0.5
	全体	1,747	—

Q17 で異年齢で構成される組やグループの指導計画を「作成している」と回答した 1,747 施設において、異年齢で構成される組やグループの指導計画の作成にあたり重視している項目は、「園児が自ら関わり合い、遊びを展開していけるような十分な配慮」87.6% (1,530 施設) が最も多く、次いで「教育及び保育のねらいや内容を明確にもった適切な環境の構成や援助」78.1% (1,365 施設)、「園児一人一人の生活や経験、発達過程などの把握」70.6% (1,234 施設) と 3 つの項目で 70%を超えている。

Q19 特別な配慮を必要とする園児への保育に関して行っていることのうち、障害のある園児に関する内容について（今後の予定を含む）、あてはまる項目すべてを選択してください。

	内容	数	割合（％）
1	保護者の抱えてきた悩みや不安などを理解し支えるための援助を行っている	4,644	75.2
2	小学校との連携のため、指導要録の送付以外に当該園児の情報を共有したり、小学校教員が園を訪問したりしている	4,624	74.9
3	適切な環境の下で、障害のある園児が他の園児との生活を通して共に成長できるよう、個別の指導計画を作成している	4,396	71.2
4	児童発達支援センター等に対し専門的な助言又は援助を要請している	3,948	64.0
5	認定こども園と児童発達支援センター等の関係機関とで定期的に障害のある園児の支援にむけて、話し合う機会をもっている	3,863	62.6
6	保護者と園児についての理解を深め合うための特別な機会を確保している	3,695	59.9
7	家庭や関係機関と連携するための個別の支援計画を作成している	3,607	58.4
8	障害のある園児が地域で共に生きる意識をもつことができるようにしたりするための配慮を行っている	2,058	33.3
9	他の園児の保護者に対する、障害等に対する理解が深まるよう支援している	1,786	28.9
10	特別支援教育コーディネーターを配置している	1,719	27.9
11	障害のある園児の支援に向けた園内委員会を設置している	1,642	26.6
12	その他	137	2.2
13	今年度、障害のある園児は、在籍していない	327	5.3
	全体	6,172	－

特別な配慮を必要とする園児への保育に関して行っていることのうち、障害のある園児に関する内容は、「保護者の抱えてきた悩みや不安などを理解し支えるための援助」75.2％（4,644 施設）が最も多く、次いで「小学校との連携のための情報共有、小学校教員の園訪問」74.9％（4,624 施設）、「個別の指導計画の作成」71.2％（4,396 施設）と 3 項目で 70％を上回っている。その一方で「障害のある園児が地域で共に生きる意識をもつことができるための配慮」「他の園児の保護者に対する障害等に対する理解が深まるための支援」「特別支援教育コーディネーターの配置」「支援に向けた園内委員会の設置」については、それぞれ 33.3％（2,058 施設）、28.9％（1,786 施設）、27.9％（1,719 施設）、26.6％（1,642 施設）に留まっている。

Q20 障害のある園児の個別の指導計画を立てる際、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	一人一人の実態を的確に把握すること	4,146	94.3
2	援助の内容について	3,587	81.6
3	課題となっていることが生じやすい場面や状況、その理由などを適切に分析をすること	3,461	78.7
4	場面に適した行動などの具体的な目標をたてること	3,441	78.3
5	園児の特性や能力に応じて、1週間から2週間程度を目安に少しずつ達成していけるよう細やかな目標を設定すること	1,510	34.3
6	その他	80	1.8
7	重視している特定の項目はない	11	0.3
	全体	4,396	—

障害のある園児の個別の指導計画において重視している項目は、「一人一人の実態の的確な把握」94.3%（4,146 施設）が最も多く、次いで「援助の内容」81.6%（3,587 施設）であった。一方で、「細やかな目標の設定」については 34.3%（1,510 施設）に留まっている。

Q21 特別な配慮を必要とする園児への指導に関して行っていることのうち、外国人幼児など（言語や文化的背景等の違いにより、本人又は保護者への支援を要する幼児）に関する内容について（今後の予定を含む）、あてはまる項目すべてを選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	保護者に園生活や園の方針を丁寧に説明している	3,253	52.7
2	小学校との連携のため、指導要録の送付以外に当該園児の情報を共有したり、小学校教員が園を訪問したりしている	2,023	32.8
3	母語を用いた挨拶や言葉がけを行っている	998	16.2
4	その他	237	3.8
5	今年度、外国人幼児などは在籍していない	2,542	41.2
	全体	6,172	—

外国人幼児などが在籍していない園が 41.2%（2,542 施設）あり、全体的に外国人幼児などへの指導に関して行っていることは限定的である。その中で、最も多い項目は「保護者への丁寧な説明」52.7%（3,253 施設）であった。

Q22 児童票に記載されている項目に関して、育ちに関する情報について記載されている項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	健康に関する記録（既往歴、アレルギー有無・原因、予防接種歴など）	5,834	94.5
2	入園時の状況（食事、排泄、睡眠、好きな遊びなど）	5,456	88.4
3	保育の展開と園児の育ち	4,071	66.0
4	その他特記事項	351	5.7
5	児童票は作成していない	170	2.8
	全体	6,172	－

児童票において育ちに関する情報について記載されている項目は、「健康に関する記録」94.5%（5,834 施設）、次いで「入園時の状況」88.4%（5,456 施設）であった。

Q23 園児の理解に基づいた評価の実施について、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	園児の発達の状況を日頃から保護者に伝え、園児が育つ姿を共有している	5,746	93.1
2	園児の発達の状況を次の保育教諭または小学校等に伝え、園児が育つ姿を共有している	5,252	85.1
3	複数の保育教諭等で判断の根拠となっている考え方を突き合わせ、多面的に園児を捉えている	4,176	67.7
4	写真付きの記録を作成したりエピソードを記録したり等、評価の参考となる情報をできるだけ充実させる	2,620	42.4
5	その他	37	0.6
6	重視している特定の項目はない	25	0.4
	全体	6,172	－

園児の理解に基づいた評価の実施について、重視している項目は、「保護者との園児が育つ姿の共有」93.1%（5,746 施設）が最も多く、次いで「次の保育教諭または小学校等との園児が育つ姿の共有」85.1%（5,252 施設）であった。

Q24 認定こども園における教育及び保育の内容等の評価にあたって、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	保護者からの意見や要望等	5,245	85.0
2	同じ認定こども園の教職員間での対話等	4,655	75.4
3	自治体職員等からの意見や助言等	1,915	31.0
4	地域住民からの意見や要望等	1,873	30.3
5	他の認定こども園等の教職員からの意見・助言等	1,733	28.1
6	他の認定こども園等の教職員からの意見・助言等	1,733	28.1
7	評価機関の評価者（第三者評価等）からの意見・助言等	1,526	24.7
8	評価機関の評価者（第三者評価等）からの意見・助言等	1,526	24.7
9	その他	152	2.5
10	重視している特定の項目はない	124	2.0
	全体	6,172	－

認定こども園における教育及び保育の内容等の評価にあたって重視している項目は、「保護者からの意見や要望等」85.0%（5,245 施設）が最も多く、次いで「同じ認定こども園の教職員間での対話等」75.4%（4,655 施設）であった。その他の6つ項目は40%を下回っている。

Q25 認定こども園における教育及び保育の内容等の評価結果の公表について、どのような方法で公表していますか。

	内容	数	割合 (%)
1	クラスだより・園だよりなど、認定こども園で発行している通信を活用している	3,820	61.9
2	連絡帳やインターネット上のサービスなど、保護者とのコミュニケーションのためのツールを活用している	2,945	47.7
3	保護者に目につきやすい場所に掲示している	2,420	39.2
4	保護者会の機会に報告や説明をしている	1,978	32.0
5	自治体ホームページに掲載している	830	13.4
6	リーフレット等の資料を作成し、関心のある人が手に取れるようにしている	671	10.9
7	その他	495	8.0
	全体	6,172	－

認定こども園における教育及び保育の内容等の評価結果の公表の方法は、「認定こども園で発行している通信を活用している」61.9%（3,820 施設）が最も多いが、それ以外の各項目は50%を下回っている。また、「その他」には「公表していない」も含まれていた。

Q26 認定こども園における教育及び保育の内容等の評価の活用について、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	保育の改善・充実	5,681	92.0
2	職員の資質・専門性の向上	5,399	87.5
3	職員間の相互理解・協働	4,841	78.4
4	関係者(保護者等)との理解の共有・連携の促進	4,267	69.1
5	その他	54	0.9
	全体	6,172	－

認定こども園における教育及び保育内容等の評価の活用について、重視している項目は、「保育の改善・充実」92.0 % (5,681 施設) が最も多く、次いで「職員の資質・専門性の向上」87.5% (5,399 施設) であった。

Q27 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をどのように活用していますか。あてはまるものをすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	長期の指導計画（年間計画、月案等）の作成時に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を使用して話し合ったり、書いたりしている	4,385	71.0
2	教育課程の編成時に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を使用して話し合ったり、書いたりしている	3,311	53.6
3	指導の過程の振り返り時に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を使用して話し合ったり、書いたりしている	3,252	52.7
4	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を引用して園児の育ちや学びを小学校と共有している	3,159	51.2
5	短期の指導計画（週案、日案等）の作成時に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を使用して話し合ったり、書いたりしている	2,641	42.8
6	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を引用して園児の育ちや学びを保護者と共有している	2,391	38.7
7	その他	117	1.9
8	特に活用していない	222	3.6
	全体	6,172	－

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用について、「長期の指導計画の作成時に項目名や具体的な記述を使用して話し合ったり書いたりしている」71.0% (4,385 施設) が最も多く、次いで「教育課程の編成時に項目名や具体的な記述を使用して話し合ったり書いたりしている」53.6% (3,311 施設) であった。一方で「特に活用していない」が3.6% (222 施設) だった。

Q28 Q28 から Q31 の質問は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第2章「ねらい及び内容並びに配慮事項」乳児期の園児の保育について伺います。以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健やかに伸び伸びと育つ」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育教諭等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする	4,965	89.6	541	9.8
2	一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす	4,512	81.4	434	7.8
3	個人差に応じて授乳を行い、授乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ	3,956	71.4	912	16.5
4	一人一人の生活リズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする	4,301	77.6	733	13.2
5	おむつ交換や衣類の着脱などを通して、清潔になることの心地よさを感じる	4,285	77.3	278	5.0
6	あてはまるものはない	140	2.5	3,893	70.2
	全体	5,542	—	5,542	—

※本質問は、Q9で0歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q9で0歳児が1名以上在籍すると回答した園 5,542 施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「乳児期の園児の保育」の「健やかに伸び伸びと育つ」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「保育教諭等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする」が最も多く 89.6% (4,965 施設)、次に「一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす」 81.4% (4,512 施設) であった。一方、難しさを感じているのは、「個人差に応じて授乳を行い、授乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ」が 16.5% (912 施設) で最も多く、次に「一人一人の生活リズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする」が 13.2% (733 施設) が多かった。

Q29 以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「身近な人と気持ちが通じ合う」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	園児からの働き掛けを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす	4,661	84.1	582	10.5
2	体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育教諭等とのやり取りを楽しむ	4,469	80.6	368	6.6
3	生活や遊びの中で、自分の身近な人の存在に気づき、親しみの気持ちを表す	4,408	79.5	329	5.9
4	保育教諭等による語り掛けや歌い掛け、発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ	4,219	76.1	564	10.2
5	温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える	4,543	82.0	540	9.7
6	あてはまるものはない	139	2.5	4,349	78.5
	全体	5,542	—	5,542	—

※本質問は、Q9で0歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q9で0歳児が1名以上在籍すると回答した園 5,542 施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「乳児期の園児の保育」の「身近な人と気持ちが通じ合う」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「園児からの働き掛けを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす」が最も多く 84.1% (4,661 施設)、次に「温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える」82.0% (4,543 施設) であった。一方、難しさを感じているのは、「園児からの働き掛けを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす」が 10.5% (582 施設) で最も多く、次に「保育教諭等による語り掛けや歌い掛け、発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ」が 10.2% (564 施設) であった。

Q30 以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「身近なものと関わり感性が育つ」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ	4,410	79.6	369	6.7
2	生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きを豊かにする	4,595	82.9	523	9.4
3	保育教諭等と一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る	4,199	75.8	305	5.5
4	玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ	4,426	79.9	361	6.5
5	保育教諭等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする	4,444	80.2	350	6.3
6	あてはまるものはない	183	3.3	4,609	83.2
	全体	5,542	—	5,542	—

※本質問は、Q9で0歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q9で0歳児が1名以上在籍すると回答した園 5,542 施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「乳児期の園児の保育」の「身近なものと関わり感性が育つ」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きを豊かにする」が最も多く 82.9% (4,595 施設)、次に「保育教諭等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする」80.2% (4,444 施設)であった。一方、難しさを感じているのは、「生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きを豊かにする」が 9.4% (523 施設)で最も多かったが、10%を下回っている。

Q31 乳幼児期の保育を実施するにあたり、特に力を入れていたり、工夫していることがありましたら具体的に記入をしてください。（自由記述）

	キーワード	出現回数		キーワード	出現回数
1	安心	383	6	安全	187
2	愛着	257	7	信頼関係	155
3	担当制	255	8	生活リズム	133
4	保護者	251	9	食事	124
5	遊び	234	10	スキンシップ	53

保育教諭、こども、園児の出現回数はカウントしていない。

上記はSherpa AIを用いて、頻出ワードを抽出するテキスト分析を実施した結果である。

乳幼児期の保育の実施に関する自由記述 2,201 件において、「安心」「愛着」「担当制」を使用した記述が多くみられた。

自由記述の例（抜粋および要約）	キーワード
・乳児期のこどもを「ただかわいい存在」としてではなく、様々な世界に自ら関わろうとする姿を大切に、保育を行っている。危険でない限り、こどもの自主性を尊重し、邪魔しないことを意識している。 ・乳児・幼児共通であるが、職員一人一人がこどもの心の拠り所「心の安全基地」になり、安心して過ごせる環境をつくることを重要視し、こどもが心を開放的にできる園の雰囲気、職員間の雰囲気、こどもの匂いがする園作りを目指している。	安心
・乳児期は、親との愛着関係を深めた上で、初めて出会う親以外の大人との安心できる安定的な関係作りが重要である。自分の欲求を表出し、受け止めてもらう大切な時期と捉え、職員は、常にこどもの姿を肯定的に見取り、健やかにのびやかに育つようかかわっている。 ・乳児期のお子様をお預かりする上で保護者との信頼関係を築ける工夫として、園での様子を毎日ドキュメンテーションでお知らせしている。	安心、愛着、信頼関係
・愛着関係を深め、生活リズムを家庭から引き継ぎ、五感を刺激する遊びを工夫し、保護者と共に子育てを行っている。発達を促す遊びの工夫や、興味関心に沿った環境づくりを行い、食事は丁寧に提供している。	愛着、保護者、遊び、食事、生活リズム
・乳児担当制保育を導入し、愛着関係の構築や個別対応を重視し、こどもの成長を支援している。 ・担当保育士がこども一人一人と安定した愛着関係を築くことで、情緒の安定と健やかな成長を促している。	愛着、担当制
・グループ保育を行い、愛着関係を大切に、乳児期の自立を支援している。	愛着

・パーティションで空間を限りながら落ち着いた環境でこどもたちが過ごせるようにしている。 ・温かい言葉掛けができるように言葉がけの工夫やどのようにしていくかを会議で話し合い、その内容をマニュアル化している。	
・育児担当制を導入し、食事面での配慮や保護者との信頼関係を大切にし、こどもの成長を支えている。栄養士、調理師と保育教諭が連携を取り、安心安全な食事内容に細かい配慮を行っている。	担当制、食事、保護者、安心、安全、信頼関係
・保育士数にゆとりを持たせ、個々の発達に応じた離乳食や遊びを提供し、保護者と共にこども理解を深めている。職員、保護者と共に学ぶ機会を持つことで、こどもの理解及び支援を行っている。	遊び、保護者
・特定の保育者との信頼関係を築き、保護者と連携し、個々の成長に応じた支援を行っている。 ・調理員が毎日全クラスの食事場面にに関わり、離乳食の進み具合や個々の状況を確認している。	信頼関係、保護者、食事

Q32 Q32 から Q37 の質問は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第2章「ねらい及び内容並びに配慮事項」満1歳以上満3歳未満の園児の保育について伺います。以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「健康」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合(%)	数	割合(%)
1	保育教諭等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする	5,288	88.2	387	6.5
2	食事や午睡、遊びと休息など、幼保連携型認定こども園における生活のリズムが形成される	4,711	78.6	436	7.3
3	走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ	4,538	75.7	460	7.7
4	様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ	4,188	69.9	780	13.0
5	身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く	4,456	74.3	358	6.0
6	保育教諭等の助けを借りながら衣類の着脱を自分でしようとする	4,481	74.8	313	5.2
7	便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる	4,035	67.3	833	13.9
8	あてはまるものはない	147	2.5	4,196	70.0
	全体	5,994	—	5,994	—

※本質問は、Q9で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q9で1歳児あるいは2歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園5,994施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「健康」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「保育教諭等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする」が最も多く88.2%（5,288施設）、次に「食事や午睡、遊びと休息など、幼保連携型認定こども園における生活のリズムが形成される」78.6%（4,711施設）であった。一方、難しさを感じているのは、「便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる」が13.9%（833施設）で最も多く、次が「様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ」で13.0%（780施設）であった。

Q33 以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「人間関係」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育教諭等や周囲の園児等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる	5,024	83.8	355	5.9
2	保育教諭等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす	4,999	83.4	540	9.0
3	身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の園児と関わりをもって遊ぶ	4,431	73.9	437	7.3
4	保育教諭等の仲立ちにより、他の園児との関わり方を少しずつ身につける	4,621	77.1	539	9.0
5	幼保連携型認定こども園の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く	4,088	68.2	746	12.4
6	生活や遊びの中で、年長児や保育教諭等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする	4,105	68.5	353	5.9
7	あてはまるものはない	184	3.1	4,454	74.3
	全体	5,994	—	5,994	—

※本質問は、Q9で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q9で1歳児あるいは2歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園5,994施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「人間関係」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「保育教諭等や周囲の園児等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる」が最も多く83.8% (5,024施設)、次に「保育教諭等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす」が83.4% (4,999施設)であった。一方、難しさを感じているのは、「幼保連携型認定こども園の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く」が12.4% (746施設)で最も多かった。

Q34 以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「環境」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする	4,917	82.0	498	8.3
2	玩具、絵本、遊具などに興味をもちそれらを使った遊びを楽しむ	4,740	79.1	234	3.9
3	身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く	4,136	69.0	491	8.2
4	自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ	3,834	64.0	669	11.2
5	身近な生き物に気付き、親しみをもつ	4,221	70.4	712	11.9
6	近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ	3,995	66.6	736	12.3
7	あてはまるものはない	232	3.9	4,132	68.9
	全体	5,994	—	5,994	—

※本質問は、Q9で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q9で1歳児あるいは2歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園5,994施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「環境」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする」が最も多く82.0%（4,917施設）、次に「玩具、絵本、遊具などに興味をもちそれらを使った遊びを楽しむ」が79.1%（4,740施設）であった。一方、難しさを感じているのは、「近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ」が12.3%（736施設）で最も多く、次に「身近な生き物に気付き、親しみをもつ」が11.9%（712施設）であった。

Q35 以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「言葉」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育教諭等の応答的な関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使おうとする	4,792	79.9	452	7.5
2	生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける	4,116	68.7	466	7.8
3	親しみをもって日常の挨拶に応じる	4,645	77.5	440	7.3
4	絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ	4,584	76.5	249	4.2
5	保育教諭等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ	4,370	72.9	314	5.2
6	保育教諭等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ	4,745	79.2	419	7.0
7	保育教諭等や友達の話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする	4,548	75.9	518	8.6
8	あてはまるものはない	203	3.4	4,676	78.0
	全体	5,994	—	5,994	—

※本質問は、Q9で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q9で1歳児あるいは2歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園5,994施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「言葉」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「保育教諭等の応答的な関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使おうとする」が最も多く79.9% (4,792施設)、次に「保育教諭等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ」が79.2% (4,745施設)であった。一方、難しさを感じているのは、「保育教諭等や友達の話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする」が8.6% (518施設)で最も多かったが10%を下回っている。

Q36 以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「表現」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ	4,869	81.2	350	5.8
2	音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ	4,564	76.1	331	5.5
3	生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ	4,386	73.2	449	7.5
4	歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする	4,823	80.5	240	4.0
5	保育教諭等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする	3,987	66.5	847	14.1
6	生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する	4,258	71.0	790	13.2
7	あてはまるものはない	221	3.7	4,402	73.4
	全体	5,994	—	5,994	—

※本質問は、Q9で1歳児あるいは2歳児が1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q9で1歳児あるいは2歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園5,994施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「表現」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ」が最も多く81.2%（4,869施設）、次に「歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする」が80.5%（4,823施設）であった。一方、難しさを感じているのは、「保育教諭等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする」が14.1%（847施設）で最も多く、次が「生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する」で13.2%（790施設）であった。

Q37 満1歳以上満3歳未満の園児の保育を実施するにあたり、特に力を入れていたり、工夫していることがありましたら具体的に記入をしてください。（自由記述）

	キーワード	出現回数		キーワード	出現回数
1	遊び	402	6	言葉	121
2	環境	324	7	自分で	117
3	安心	192	8	安全	110
4	興味	140	9	保護者	92
5	担当制	135	10	生活習慣	91

保育教諭、こども、園児の出現回数はカウントしていない。

上記はSherpa AIを用いて、頻出ワードを抽出するテキスト分析を実施した結果である。

満1歳以上満3歳未満の園児の保育の実施に関する自由記述 2,046 件においては、「遊び」「環境」「安心」を含む自由記述が多くみられた。

自由記述の例（抜粋および要約）	キーワード
・満3歳未満では、すべてが遊びであるため、生活面でのルールも遊びの中で覚えていけるように配慮している。しかし、個々の育ちが異なるため、保育者が日々の発達を促すことに難しさを感じる。そのため、こどもたちの思いを受け止めながら、取り組むことに力を入れている。	遊び
・遊びのコーナーを設け、こども達の興味や発達に合わせて環境を整え、育児担当制を取り入れた安心できる生活環境を提供し、自主性を尊重している。	遊び、環境、担当制、安心、興味
・1歳児は、0歳児同様育児担当制を取り入れており、少しずつ動きも活発になり個人差もあるため、月齢やこどもの様子から数人でグループを分けて安心して生活できるようにしている。 ・未満児全体では自分でできることは自分で行えるようにしている。 ・2歳児からは、こどもたちがやりたい遊びを選択したり、食べたい子から給食を食べにいくなど、こどもの自主性を大切にしている。	遊び、安心、担当制
・それぞれの発達段階にあわせた環境づくりに力を入れている。応答的関わりを重視し、保育者がすべてに介入するのではなく、そのこどもの出来る範囲を把握し、その子自身が自ら問題を解決するように支援している。	環境
・基本的な生活習慣を日々の中で丁寧に繰り返しながら習得できるよう家庭との連携を密にしながら進めている。 ・四季を通じて自然と関わる、自然物で遊ぶ体験を重視し豊かな体験活動を心掛けている。 ・保育者とのかかわりの中で安心して過ごすことで、こども同士の関わりが持てるよう心掛けている。	安心、生活習慣、言葉

・絵本、紙芝居など園生活や家庭貸し出しで積極的に取り入れ、想像の世界を楽しんだり、言葉の習得、疑似体験から様々な感情に気付くことを心掛けている。	
・食事の提供においては、家庭と園での提供状況に差が出ないようにしつつ、安全を確保するために職員配置基準を見直し、必要数の1.5倍の人数を配置している。	安全
・愛と信頼のあたたかい雰囲気作りの中で、こどもが自己を出しながら生命の保持と情緒の安定が図られるよう保育を展開している。 ・基本的生活習慣形成の重要な年齢であることを職員間で共通理解を図っている。 ・家庭での教育力向上のための子育てのヒントをクラスだよりや連絡ツールを活用して周知するなど、きめ細やかに対応している。	生活習慣、家庭（保護者）

Q38 Q38 から Q43 の質問は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第 2 章「ねらい及び内容並びに配慮事項」満 3 歳以上の園児の教育及び保育について伺います。以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の 5 領域のうち「健康」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育教諭等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する	4,783	78.5	259	4.3
2	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	4,937	81.0	235	3.9
3	進んで戸外で遊ぶ	4,641	76.2	317	5.2
4	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む	4,814	79.0	231	3.8
5	保育教諭等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ	4,467	73.3	362	5.9
6	健康な生活リズムを身に付ける	4,312	70.8	619	10.2
7	身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	4,608	75.6	319	5.2
8	幼保連携型認定こども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する	3,981	65.3	750	12.3
9	自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う	3,455	56.7	929	15.2
10	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する	4,421	72.6	903	14.8
11	あてはまるものはない	146	2.4	3,896	64.0
	全体	6,092	—	6,092	—

※本質問は、Q 9 で 3 歳児から 5 歳児のいずれかが 1 名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q 9 で 3 歳児から 5 歳児のいずれかが 1 名以上在籍すると回答した園 6,092 施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の 5 領域のうち「健康」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「いろいろな遊びの中で十分に体を動かす」が最も多く 81.0% (4,937 施設)、次に「様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む」が 79.0% (4,814 施設) であった。一方、難しさを感じているのは、「自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う」が 15.2% (929 施設) で最も多く、次に「危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する」が 14.8% (903 施設) であった。

Q39 以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「人間関係」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう	4,624	75.9	164	2.7
2	自分で考え、自分で行動する	4,530	74.4	913	15.0
3	自分でできることは自分でする	4,619	75.8	365	6.0
4	いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	4,487	73.7	367	6.0
5	友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う	4,273	70.1	341	5.6
6	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	4,770	78.3	920	15.1
7	友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう	4,579	75.2	280	4.6
8	友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする	4,512	74.1	369	6.1
9	よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する	4,406	72.3	756	12.4
10	友達との関わりを深め、思いやりをもつ	4,661	76.5	393	6.5
11	友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気付き守ろうとする	4,498	73.8	443	7.3
12	共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う	3,988	65.5	532	8.7
13	高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ	2,764	45.4	1,874	30.8
14	あてはまるものはない	151	2.5	3,071	50.4
	全体	6,092	—	6,092	—

※本質問は、Q9で3歳児から5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q9で3歳児から5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園 6,092 施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「人間関係」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く」が最も多く 78.3% (4,770 施設)、次に「友達との関わりを深め、思いやりをもつ」が 76.5% (4,661 施設) であった。一方、難しさを感じているのは、「高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ」が 30.8% (1,874 施設) で最も多く、次に「自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く」が 15.1% (920 施設)、「自分で考え、自分で行動する」が 15.0% (913 施設) で多かった。

Q40 以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「環境」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気が付く	4,548	74.7	385	6.3
2	生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	4,042	66.3	420	6.9
3	季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く	4,367	71.7	323	5.3
4	自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ	4,628	76.0	346	5.7
5	身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気が付き、いたわったり、大切にしたりする	4,384	72.0	663	10.9
6	日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ	3,177	52.2	1,129	18.5
7	身近な物を大切にする	4,361	71.6	495	8.1
8	身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	4,200	68.9	472	7.7
9	日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	3,829	62.9	411	6.7
10	日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ	3,701	60.8	385	6.3
11	生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ	2,941	48.3	861	14.1
12	幼保連携型認定こども園内外の行事において国旗に親しむ	1,939	31.8	1,702	27.9
13	あてはまるものはない	212	3.5	3,077	50.5
	全体	6,092	—	6,092	—

※本質問は、Q9で3歳児から5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q9で3歳児から5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園 6,092 施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「環境」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ」が最も多く 76.0% (4,628 施設)、次に「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気が付く」が 74.7% (4,548 施設)であった。一方、難しさを感じているのは、「幼保連携型認定こども園内外の行事において国旗に親しむ」が 27.9% (1,702 施設)で最も多く、次に「日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」が 18.5% (1,129 施設)、「生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」が 14.1% (861 施設)で多かった。

Q41 以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「言葉」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする	4,713	77.4	274	4.5
2	したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	4,765	78.2	555	9.1
3	したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする	4,774	78.4	665	10.9
4	人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	4,137	67.9	1,206	19.8
5	生活の中で必要な言葉が分かり、使う	4,271	70.1	295	4.8
6	親しみをもって日常の挨拶をする	4,713	77.4	398	6.5
7	生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	3,505	57.5	768	12.6
8	いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする	4,202	69.0	584	9.6
9	絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう	4,646	76.3	254	4.2
10	日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう	3,443	56.5	629	10.3
11	あてはまるものはない	193	3.2	3,820	62.7
	全体	6,092	—	6,092	—

※本質問は、Q9で3歳児から5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q9で3歳児から5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園 6,092 施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「言葉」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする」が最も多く78.4% (4,774 施設)、次に「したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する」が78.2% (4,765 施設)であった。一方、難しさを感じているのは、「人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す」が19.8% (1,206 施設)で最も多く、次が「生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く」12.6% (768 施設)であった。

Q42 以下の項目は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「表現」に示される「内容」です。園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する以下項目の中で、「かなり重視して取り組んでいる」項目と「難しさを感じている」項目について、それぞれあてはまるものをすべて選択してください。

	内容	かなり重視して 取り組んでいる (すべて)		難しさを感じている (すべて)	
		数	割合 (%)	数	割合 (%)
1	生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ	4,320	70.9	306	5.0
2	生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする	3,936	64.6	785	12.9
3	様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう	4,018	66.0	680	11.2
4	感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする	4,255	69.8	708	11.6
5	いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ	4,612	75.7	374	6.1
6	音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう	4,379	71.9	395	6.5
7	かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする	4,679	76.8	241	4.0
8	自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう	3,991	65.5	684	11.2
9	あてはまるものはない	245	4.0	4,183	68.7
	全体	6,092	—	6,092	—

※本質問は、Q9で3歳児から5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園を対象にしている。

Q9で3歳児から5歳児のいずれかが1名以上在籍すると回答した園 6,092 施設において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域のうち「表現」に示される「内容」で、園児の姿や育ちを支える日々の実践に関する項目において、「かなり重視して取り組んでいる」は「かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする」が最も多く 76.8% (4,679 施設)、次に「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」が 75.7% (4,612 施設) であった。一方、難しさを感じているのは、「生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」が 12.9% (785 施設) で最も多く、次に「感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする」が 11.6% (708 施設) であった。

Q43 満3歳以上の園児の保育を実施するにあたり、特に力を入れていたり、工夫していることがありましたら具体的に記入をしてください。（自由記述）

	キーワード	出現回数		キーワード	出現回数
1	遊び	570	6	表現	122
2	興味・関心	243	7	やりたい・やってみたい	95
3	異年齢	202	8	保護者	95
4	主体・主体性・自主性	195	9	自分で考え	94
5	言葉	122	10	運動	81

保育教諭、こども、園児の出現回数はカウントしていない。

上記はSherpa AIを用いて、頻出ワードを抽出するテキスト分析を実施した結果である。

満3歳以上の園児の保育の実施に関する自由記述においては、「遊び」「興味・関心」「異年齢」を含む自由記述が多くみられた。

自由記述の例（抜粋および要約）	キーワード
・遊びや生活の中で選択肢を提供し、個性を尊重する環境を整えている。 ・協力やチャレンジ精神を育むことを目指し、安心して通えるクラス運営を心がけている。失敗を恐れず、やりたいことに挑戦できるように援助し、こどもたちの思いに寄り添っている。	遊び、やりたい
・チーム保育を導入し、こどもの成長を多角的に捉え、主体性を伸ばすために環境構成を工夫している。 ・自由遊びや給食の時間もこどもが選択できるようにし、顔写真を活用してわかりやすくしています。こどもたちの意見を大切にし、自分で選択する中で主体性を伸ばせるように日々工夫している。	遊び、主体性
・異年齢保育を中心に、多様な関係性の中でこども自らが自己発揮することを重視している。 ・少子化で減少した地域の関わりを保育施設で再現し、こどもの発達を支える環境を提供している。家庭での遊びや工作の時間を保育施設で作り出すことが重要と考えている。	遊び、異年齢、自己発揮（自主性）
・遊びを通じて様々な経験を積み、探究心や協調性を育む環境を整えている。 ・個性を尊重し、生活習慣の確立を支援し、こどもたちが「生きる力」を育むことができるようにしている。 ・仲間と関わり合いながら主体的に活動できるよう促し、思考力や表現力を育てている。	遊び、主体、表現
・経験を重ね、見通しを持って行動できるよう声かけを意識している。 ・コーナー保育でこどもの声を反映し、遊びを広げるために必要な物	遊び、やりたい・やってみたい

を考え準備し、対話をしながら進めている。こども達のやりたい、やってみたいという遊びが実現できるように保育を行っている。	
・生活習慣の自立を促進し、自然環境を活かした保育活動で自立性を育んでいる。特に善悪の判断を培う心の生活習慣の形成に力を入れている。 ・小学校との連携で小一プロブレム解消に取り組み、地域全体で接続期のカリキュラム作成に力を注いでいる。	自立性（自主性）
・こどもの考えていること、気持ち、困ったこと等を、言葉で表現することを重視している。こども会議を5歳児が取り組み、運動会や生活発表会をどのようにしたいか、こどもに考えさせ実施したところ、こどもは達成感を感じていた。	言葉、表現、考えさせ（自分で考え）

Q44 園児が身体を大きく動かす遊びをするために、貴園で活用されている場所をすべて選択してください。

	内容	数	割合（％）
1	園庭	6,032	97.7
2	遊戯室（ホール等）	5,427	87.9
3	公園	3,714	60.2
4	保育室	3,410	55.2
5	公共施設（スポーツ施設・体育館等）	1,196	19.4
6	その他	477	7.7
	全体	6,172	－

園児が体を大きく動かす遊びをするために活用されている場所は、「園庭」が最も多く 97.7% (6,032 施設)、次に遊戯室（ホール等）が 87.9% (5,427 施設) であった。

Q45 貴園で保有している絵本等の冊数を教えてください。

	内容	数	割合（％）
1	50冊未満	39	0.6
2	50～100冊未満	266	4.3
3	100～300冊未満	1,373	22.2
4	300～500冊未満	1,268	20.5
5	500～1,000冊未満	1,332	21.6
6	1,000～1,500冊未満	776	12.6
7	1,500～2,000冊未満	391	6.3
8	2,000冊以上	727	11.8
	全体	6,172	100.0

保有している絵本等の冊数は、「100～300 冊未満」が 22.2%（1,373 施設）と最も多いが、次ぐ「500～1,000 冊未満」21.6%（1,332 施設）、「300 冊～500 冊」20.5%（1,268 施設）が近似している。

Q46 園児が絵本や物語に触れる機会が増えるように、貴園で行われていることをすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	興味のある活動に関する絵本を準備している	5,502	89.1
2	絵本や物語を題材にした劇や遊びをしている	4,908	79.5
3	保育教諭等が絵本を借りて園児に読み聞かせをするなど、園の近隣地域にある図書館等を活用している	3,364	54.5
4	民間団体や地域ボランティアによるおはなし会や読み聞かせ会をしている	2,028	32.9
5	読み聞かせの楽しさや読書の重要性について、保護者の理解が促進される機会を設けている（講演会等）	1,480	24.0
6	地域の図書館や小学校の学校図書館を園児と訪問している	1,095	17.7
7	絵本等の読み聞かせ等を通して小中学生と交流している	801	13.0
8	その他	763	12.4
9	特に工夫はしていない	38	0.6
	全体	6,172	—

園児が絵本や物語に触れる機会が増えるように行われていることについて、「興味のある活動に関する絵本を準備している」89.1%（5,502 施設）が最も多く、次いで「絵本や物語を題材にした劇や遊びをしている」79.5%（4,908 施設）であった。

Q47 教育及び保育の場面で使用する園の ICT・デジタル機器に係る環境について、貴園で利用されているものをすべてお選びください。※教職員個人の私物は含まず、貴園で保有（リースを含む）されているものに限定して回答してください。※園児自身が直接操作しないが、園児が写真や動画、音声を見たり聞いたりする場合も含んでお答えください。

	内容	数	割合 (%)
1	教育及び保育で使用するパソコン	3,823	61.9
2	教育及び保育で使用するタブレット	3,509	56.9
3	教育及び保育で使用する映像ディスプレイ	2,281	37.0
4	教育及び保育で使用するスマートフォン	1,510	24.5
5	幼児向けに開発されたアプリケーションソフト	623	10.1
6	その他	133	2.2
7	ICT・デジタル機器を導入していない	1,026	16.6
	全体	6,172	—

ICT・デジタル機器の活用については、「教育・保育で使用するパソコン」61.9%（3,823 施設）が最も多く、まだ普及の余地が残されていることが示されている。また、「その他」の中にも「ICT・デジタル機器を導入・使用していない」旨のコメントが含まれていた。

Q48 教育及び保育の場面で ICT・デジタル機器を活用する際、どのような目的で活用していますか。あてはまるものをすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	見返したり、友達や保育教諭と共有したりするための記録（写真や動画、音声等）をするため	3,821	74.3
2	興味や関心をもった事柄について調べたりするため	2,732	53.1
3	表現活動のツールとして活用するため	1,771	34.4
4	身近な物や生き物等を観察するため	1,357	26.4
5	離れたところの人とコミュニケーションをとったり、場を共有したりするため	1,107	21.5
6	その他	327	6.4
7	教育及び保育の場面で ICT・デジタル機器を活用していない	393	7.6
	全体	5,146	—

教育及び保育の場面における ICT・デジタル機器の活用の目的については、「共有や見返すための記録」74.3%（3,821 施設）が最も多く、次いで「興味や関心を持ったことを調べる」53.1%（2,732 施設）であった。それ以外の目的は 30%台あるいは 30%を下回っており、活用の場面が限られていることが示されている。また、「その他」の中にも「教育及び保育の場面で ICT・デジタル機器を活用していない」旨のコメントが含まれていた。

Q49 ICT・デジタル機器を活用して教育及び保育活動を実施した際に、想定したような活動にならなかったり、園児の発達にふさわしくなかったりしたことがあれば、具体的に教えてください。

Q48 で「教育及び保育の場面で、ICT・デジタル機器を活用していない」と回答した園を除き、734 の自由記述があったが、そのうちの 364 が「特になし」などの質問に該当するケースがなかった旨の記述、65 件が「活用していない」「保護者との連絡や書類の作成で活用しているが、教育及び保育においては活用していない」などの教育及び保育での活用がない、あるいは限定的である旨の記述であった。それ以外の記述の中で、ICT・デジタル機器を教育及び保育で活用した結果、想定していたような活動にならなかったり、幼児期の発達にふさわしくなかったことに触れている記述を以下に抜粋および要約し記載する。

自由記述の例（抜粋および要約）
・活動中のこどもの自然な姿と提供したいと思いながらも、遊び込んでいるときに写真を撮ることにより、注意がそれてしまう事があったり、保育士が撮ることに集中しすぎたりすることもある。
・インターネットはすぐに検索できるが、それが正しい情報なのかも不明なのに頼ってしまう事、本で調べることを嫌がるこどもも多くなってきているので、図鑑などを活用していきたい。

・活用してみて、やはり乳幼児期は「生身」であるということを痛感している。大切な記録ほど「ポートフォリオ」や「写真」では伝わらず、その時の「やりとり」や「保育のおもしろさ」は、「手書き」に勝るものはないと思っている。読み返したり、その子の育ちを振り返る時に心が動くのはやはり「手書き」を見返すと、その場面が蘇りとても感動する。
・デジタル機器=youtube になる園児もいるため、使用の際には大人がそばにつくことが必須である。通信事業者と契約していない園用のフリーの iPhone (youtube 等のアプリはインストールしていないもの) を年長児に貸し出した際に隠れたところで safari を経由し Google から youtube を検索し視聴していた。
・こども用のタブレットが数台あり、5 歳児が調べたいことを調べるが、今のこどもたちは、機器の扱いをよく知っているため、家庭で見たり聞いたりする内容のものを出して友達同士で共有するような場面があった。家庭は家庭、園は教育の場としてふさわしいものを厳選するという作業が必要である。
・音楽に合わせて体を動かす見本を、保育教諭から動画に変更したところ、保育教諭が見本の場合はこどもは皆が模倣できるが、動画を見本とすると一部のこどもは模倣という行動から、動画を見るという行動になってしまうことがある。家庭で動画に慣れていないこども程、そうなる傾向がある。
・与えられた情報を自己開発をしながら楽しむという活動にはつながらなかった。乳幼児への ICT・デジタルは発達段階で想像力や思考力を問われる場面でもあり、未発達な部分を持つ乳幼児には言葉や情景を直に感じた教育が望ましいと思う。ICT・デジタルは乳幼児の段階ではまだ必要ないと感じた。
・園児は家庭でスマホやタブレットで youtube やゲームをしていて、そのため集中力や安定した心の育みに影響していると思われる。園でもタブレットを見ると目の色を変えて触りたがる。園では自然の物に触れさせ五感を育みたいと考えるのでできるだけ使用したくない。
・今のこどもの youtube への依存度が高く、自由に操作できない端末に対して興味を持つことができない。短時間で変わるショートムービーなどへの依存度が高く、じっくりと画面を見て活動することができない。

Q50 小学校との連携のための取組をすべて選択してください（今後の予定を含む）。

	内容	数	割合（％）
1	園児と小学校の児童との交流活動	4,843	78.5
2	保育教諭等による小学校の授業参観	4,244	68.8
3	小学校の教職員による園の保育参観	3,332	54.0
4	保育教諭等と小学校の教職員との合同研修会や研究会の開催	2,965	48.0
5	小学校教育との接続を意識した全体的な計画や指導計画の作成	2,885	46.7
6	小学校との連携・接続の担当に関する業務分掌を明確にすること	2,296	37.2
7	小学校と協同して、接続を意識したカリキュラムを編成・実施	1,851	30.0
8	その他	248	4.0
9	小学校との連携の取組を実施していない	138	2.2
	全体	6,172	－

小学校との連携のための取組は、「園児と小学校児童との交流活動」78.5％（4,843 施設）が最も多く、次いで「保育教諭による小学校の授業参観」68.8％（4,244 施設）である。一方で 50％を下回る取組が 4 項目ある。

Q51 小学校との情報共有において、実施していることをすべて選択してください。

	内容	数	割合（％）
1	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用し、小学校へ入学する園児の育ちについて説明	3,234	52.4
2	小学校での生活を見通した年長児の活動に関して小学校教員が助言・協力	1,602	26.0
3	スタートカリキュラムの作成に関して保育教諭が助言・協力	1,303	21.1
4	指導要録を電子化して小学校へ送付	1,031	16.7
5	その他	989	16.0
6	指導要録の紙での送付以外、特段の情報共有はしていない	1,177	19.1
	全体	6,172	－

小学校との情報共有については、最も多い「小学校へ入学する園児の育ちについて説明」が 52.4％（3,234 施設）と半数程度であり、それ以外の項目は 30％を下回っている。

Q52 幼保連携型認定こども園における園児の健康及び安全は、園児の生命の保持と健やかな生活の基本となるものである。園児の健康状態並びに発育及び発達の状態の把握について、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	保育教諭等による日々の園児の心身の状態の観察	5,915	95.8
2	保護者から提供された、園児の状態に関する情報	5,707	92.5
3	学校医と学校歯科医による定期的な健康診断の実施	5,706	92.4
4	一人一人の園児の生育歴に関する情報の把握（母子健康手帳等の活用）	3,947	64.0
5	その他	104	1.7
6	重視している特定の項目はない	21	0.3
	全体	6,172	—

園児の健康状況並びに発育及び発達の状況の把握について重視している項目は、「保育教諭等による日々の園児の心身の状態の観察」が95.8%（5,915施設）と最も多く、次いで「保護者から提供された園児の状況に関する状況」92.5%（5,707施設）、「学校医と学校歯科医による定期的な健康診断の実施」92.4%（5,706施設）であり、いずれも90%を超えている。

Q53 虐待対策として、取り組んでいる事項をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	園児の心身の状態の観察を通じて把握すること	5,921	95.9
2	教職員間において、園児の様子や状況の変化に関する気付きを共有すること	5,815	94.2
3	送迎の機会等を通じて保護者の状況等を把握すること	5,473	88.7
4	市町村等や関係機関と情報共有等の連携を図ること	5,352	86.7
5	家庭での生活、養育の状況等を把握すること	5,155	83.5
6	マニュアルを作成するなどして基本的な対応の手順や内容等を明確にしておくこと	3,693	59.8
7	その他	55	0.9
	全体	6,172	—

虐待対策として取り組んでいる事項は、「園児の心身の状況の把握」95.9%（5,921施設）が最も多く、次いで「職員間での園児の様子等に関する気付きの共有」94.2%（5,815施設）であった。また、「送迎の機会等を通じた保護者の状態の把握」「市町村や関係機関との情報共有等の連携」「家庭での生活、養育の状況等の把握」がそれぞれ88.7%（5,473施設）、86.7%（5,352施設）、83.5%（5,155施設）と5つの項目で80%以上となっている。

Q54 全体的な計画に基づいて年間の保健計画を作成し、発育及び発達に適した生活を送ることができるよう援助する必要があります。保健計画を作成する際に、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	基本的な清潔の習慣や健康な食生活が身に付くよう指導すること	5,076	82.2
2	睡眠、食事、遊びなどの一日を通した生活リズムを整えること	4,935	80.0
3	園児の健康をめぐる家庭との連携（健康状態や健康診断結果の報告、疾病時の看護の方法や感染予防の対応の伝達、保護者会を通した健康への理解を深める働きかけ等）を図ること	4,692	76.0
4	日常的な遊びなどを通して体力づくりができるよう工夫をすること	4,640	75.2
5	一人一人の園児の生活のリズムや食習慣などを把握すること	4,620	74.9
6	健康診断など、保健の活動についての記録と評価及びこれに基づく改善	4,518	73.2
7	発達過程に応じ、身体の動きや生命の大切さなどを伝えること	4,185	67.8
8	排泄面の自立を援助すること	4,027	65.2
9	その他	51	0.8
10	重視している特定の項目はない	84	1.4
	全体	6,172	—

保健計画を作成する際に重視している項目は、「基本的な清潔の習慣や健康な食生活が身に付くよう援助すること」82.2%（5,076 施設）が最も多く、次いで「睡眠、食事、遊びなどの一日を通した生活リズムを整えること」80.0%（4,935 施設）であった。

Q55 食育の取組について、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う園児に成長していくこと	5,640	91.4
2	園児が生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ねること	5,125	83.0
3	園児が自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちを育てること	4,939	80.0
4	乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育計画を全体的な計画に基づいて作成し、その評価及び改善に努めること	4,453	72.1
5	園児と調理員等との関わりや、調理室など食に関わる環境に配慮すること	4,245	68.8
6	栄養教諭や栄養士が配置されている場合は、専門性を生かした対応を図ること	3,651	59.2
7	保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働の下で、食に関する取組が進められること	2,509	40.7
8	市町村の支援の下に、地域の関係機関等との日常的な連携を図り、必要な協力が得られるよう努めること	1,467	23.8
9	その他	81	1.3
10	重視している特定の項目はない	28	0.5
	全体	6,172	—

食育の取組について重視している項目は、「食べること、食事を楽しみ合う園児に成長していくこと」91.4%（5,640 施設）が最も多く、次いで「園児が意欲をもって食に関わる体験を積み重ねること」83.0%（5,125 施設）、「園児の食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちを育てること」80.0%（4,939 施設）であった。

Q56 学校安全計画の策定において、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合（%）
1	認定こども園の施設・設備（備品・遊具等・防災設備・避難経路等）の安全点検について	5,620	91.1
2	睡眠中の窒息や誤飲等の事故防止対策について	5,436	88.1
3	プール活動及び水遊び中の事故防止対策について	5,326	86.3
4	ヒヤリ・ハット事例の収集・分析及び対策とその共有	5,167	83.7
5	食事の場面での誤嚥などによる窒息等の事故防止対策について	5,150	83.4
6	研修や訓練の定期的な実施について	5,001	81.0
7	散歩等の園外活動中の事故防止対策について	4,976	80.6
8	園児に対する安全指導について	4,900	79.4
9	教職員間の共通理解や体制づくりについて	4,593	74.4
10	園外環境の安全点検について	4,463	72.3
11	各種マニュアルの策定状況の確認	4,239	68.7
12	家庭での安全指導を促すなど園児の安全に関する連携について	3,134	50.8
13	地域の関係機関との連携	2,941	47.7
14	認定こども園等のバス等による送迎サービスについて	1,877	30.4
15	その他	27	0.4
16	重視している特定の項目はない	23	0.4
	全体	6,172	—

学校安全計画の策定において重視している項目は、「認定こども園の施設・設備の安全点検」91.1%（5,620 施設）が最も多く、次いで「睡眠中の窒息や誤飲等の事故防止対策」88.1%（5,436 施設）であった。また、それ以外の「3」から「7」までの5項目（上表参照）も80%を上回っている。

Q57 事故の発生の備えに関して、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	緊急時の対応マニュアルの作成	5,516	89.4
2	施設内外の危険個所の点検	5,424	87.9
3	外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練	5,299	85.9
4	緊急時の対応の具体的な内容及び手順	5,226	84.7
5	緊急時の保護者や関係機関への連絡内容や連絡先などの確認	5,189	84.1
6	教職員の役割分担	4,987	80.8
7	事故発生時の対応に関する訓練の計画及び実施	4,984	80.8
8	地域の関係機関との連携	3,412	55.3
9	園児の精神保健面における対応	2,738	44.4
10	近隣の住民や企業との連携	1,502	24.3
11	その他	18	0.3
12	重視している特定の項目はない	12	0.2
	全体	6,172	—

事故の発生の備えに関して重視している項目は、「緊急時の対策マニュアルの作成」89.4%（5,516 施設）が最も多く、次いで「施設内外の危険個所の点検」87.9%（5,424 施設）であった。また、それ以外の「3」から「7」の5項目（上表参照）も80%を上回っている。

Q58 災害への備えに関して、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	避難訓練の計画及び実施	5,882	95.3
2	防火設備、避難経路等の安全性が確保されるよう、定期的な安全点検	5,577	90.4
3	緊急時の対応マニュアル作成	5,382	87.2
4	備品、遊具等の配置、適切な保管等の安全環境の整備	5,158	83.6
5	教職員の役割分担	5,155	83.5
6	緊急時の対応の具体的な内容及び手順	5,006	81.1
7	保護者との連絡体制や引渡し方法の確認	4,688	76.0
8	避難訓練における地域の関係機関との連携	3,597	58.3
9	避難訓練における保護者との連携	3,511	56.9
10	避難訓練以外での地域の関係機関との連携	2,450	39.7
11	近隣の住民や企業との連携	1,403	22.7
12	その他	24	0.4
13	重視している特定の項目はない	11	0.2
	全体	6,172	—

災害の備えに関して重視している項目は、「避難訓練の計画及び実施」95.3%（5,882 施設）が最も多く、次いで「防火設備、避難経路等の定期的な安全点検」90.4%（5,577 施設）だった。また、それ以外の「3」から「6」の4項目（上表参照）においても80%を上回っている。

Q59 災害の備えにおいて、日頃から地域のどのような関係機関と連携していますか。あてはまる項目をすべて選択してください。

災害時への備えにおいて、日頃から連携している関係機関は、「消防」84.8%（5,231 施設）が最も多い。それ以外の関係機関は「警察」が54.4%（3,357 施設）だが、その他の関係機関は50%を下回っている。また「連携はしていない」と回答した園も3.8%（233 施設）あった。

Q60 認定子ども園を利用している保護者に対する子育て支援について教育及び保育活動への保護者の積極的な参加を促すために、重視している項目をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	園児一人一人の気持ちの表し方や育ちの姿の違いに気付き、保護者自身の子育てに広がりやゆとりをもたらすきっかけとなること	4,688	76.0
2	保護者が自分でも気付かなかったこどもの新たな一面を知り、こどもの世界へ関心を寄せること	4,517	73.2
3	保護者が自分のこどもへの関わりを見直すきっかけとなること	4,149	67.2
4	保護者が園児の遊びの世界や言動の意味、友達と関わる過程にはいざこざや気持ちの折り合いなどがあることを理解すること	4,126	66.9
5	保護者が他の保護者と関わり、こどもの発達への見通しをもつことができるような情報交換をすることで、こどもの成長を長い目で見ていこうとするようになること	4,060	65.8
6	保護者の自ら子育てを実践する力を高めること	3,280	53.1
7	その他	65	1.1
8	重視している特定の項目はない	92	1.5
	全体	6,172	—

保護者に対する子育て支援について、教育及び保育活動への積極的な参加を促すために重視している項目は、「保護者自身の子育てに広がりやゆとりをもたらすきっかけとなること」76.0%（4,688 施設）が最も多く、次いで「こどもの新たな一面を知り、こどもの世界へ関心を寄せること」73.2%（4,517 施設）であった。

Q61 地域の保護者に対する子育て支援について、貴園で実施している事項をすべて選択してください。

	内容	数	割合 (%)
1	相談対応	5,051	81.8
2	園舎や園庭の開放	4,686	75.9
3	地域の子育て家庭が使える預かり事業（一時預かり等）	3,629	58.8
4	情報提供（子育て講座の開催など）	3,240	52.5
5	子育て支援に関する地域の関係者との連携（ボランティア団体、子育て支援団体、子育てサークルなど）	2,437	39.5
6	その他	351	5.7
7	特になし	90	1.5
	全体	6,172	—

地域の保護者に対して実施している子育て支援は、「相談対応」81.8%（5,051 施設）が最も多く、次いで「園舎や園庭の開放」75.9%（4,686 施設）であった。特に「子育て支援に関する地域の関係者との連携」は 39.5%（2,437 施設）と少なかった。

第3章 ヒアリング調査

1. ヒアリング調査の概要

(1) 調査目的

Web による実態調査の回答を踏まえ、実態の詳細を把握することを目的として、オンラインによるヒアリング調査を実施した。

(2) 調査対象

全国の保育所及び認定こども園、10 施設を対象とした。

(3) 調査時期

令和 7 年 2 月から令和 7 年 3 月

(4) 調査手法

調査対象者先に事前にヒアリング調査票を送付し、オンライン会議形式で実施した。

(5) ヒアリング項目

ヒアリング項目は、以下のとおり。なお、ヒアリング調査先に応じてヒアリング項目を調整している。

調査項目	
1	施設基本情報
2	異年齢保育の具体的な内容（先般の調査において「日常の保育の中で異年齢で構成される組やグループでの活動を行っている」と回答した保育所のみ）
3	低年齢児から 3 歳児以上保育への接続について
4	保育の場面における ICT の活用について
5	小学校との接続について
6	指導計画について

(6) ヒアリング調査先の選定

地域、保育所および認定こども園の規模、アンケート調査の回答などを勘案し、保育所は異年齢保育が前提となる人口減少地域 3 園とそれ以外の地域の保育所 3 園の合計 6 園、および幼保連携型認定こども園 4 園を選定した。

■ヒアリング調査協力施設

1. 認可保育所（順不同）

都道府県	市区町村	設置・運営	運営主体	施設名
香川県	土庄町	民設民営	社会福祉法人	土庄保育園
長野県	長野市	公設公営	長野市	鬼無里保育園
岩手県	西和賀町	民設民営	社会福祉法人	川尻保育園
東京都	世田谷区	公設公営	世田谷区	松原北保育園
新潟県	新潟市	公設公営	新潟市	大形保育園
鹿児島県	鹿児島市	民設民営	社会福祉法人	竹之迫保育園

2. 幼保連携型認定こども園（順不同）

都道府県	市区町村	設置・運営	運営主体	施設名
静岡県	浜松市	民設民営	学校法人	ずだじこども園
兵庫県	豊岡市	民設民営	社会福祉法人	おさかおの こども園
兵庫県	高砂市	民設民営	社会福祉法人	みどり丘こども園
秋田県	北秋田市	民設民営	社会福祉法人	認定こども園 シャロー む

2. ヒアリング調査結果

（1）指導計画作成と振り返り

いずれの保育所あるいは認定こども園（以下、保育所等とする）も年間、月次、週次の計画を年齢別に作成し、継続的な振り返りと修正を行っている。年間を4期に分けている保育所等も複数あった。3歳までは2年毎の中期計画を作成する保育所等や、別の計画を作成している保育所等もあった。また、多くの保育所等が保護者との連携を重視し、個別懇談会や保育計画等の開示を通じてこどもの成長を確認している。

計画の作成・承認には園長等や主任が関与し、職員全員で議論を重ねている保育所が多く、職員からの意見を引き出すためにマッピングを取り入れている保育所等もあった。また、画像を活用した成長発達の振り返りを取り入れ、月次と週次の計画を一体化した新しい形式を模索している保育所等や、書式の統一を進めている保育所等もあり、各保育所等で様々な工夫がなされていた。

（2）異年齢保育に関する事項

異年齢保育の実施背景には、人数からやむを得ず実施している保育所と、保育所として年齢別保育に対する考えに基づき、現在はこどもの人数が少ないものの、こどもの人数が多い時から実施している保育所があった。きっかけは異なるものの、個別対応や細やかな情報共有をしながら保育を実践している。

例えば、みんなで集まる場面等を活用した、こどもの自主性や関心・興味を重視する保育を行

う工夫がなされている。

一方で、発達の違いによる活動内容の調整や、こども同士のバランスを取る必要があること、保護者からの年齢別保育のニーズがあること、保育士間の価値観の違いやコミュニケーションの課題もあげられている。

指導計画については、異年齢保育でも年齢別の計画を併用する施設が多く、年齢ごとの成長や発達を保证するための配慮がなされている。ある保育所では、過干渉を避け、こども同士の関係づくりを重視し、ある保育所では安全性に配慮しつつ個別の成長を見守る体制を整えている。

また、他の保育所との連携を通じて、こども達に集団遊びや交流の機会を提供し、異年齢保育の中でも多様な社会経験を積むことができるよう工夫がなされている。

(3) 年齢に応じた保育の実施

(ア) 保育の実施における工夫、力を入れている点

3歳未満児の保育では、愛着関係の構築や安心感の提供を重視し、個人別の発達状況に応じた計画を立てている。徐々にこどもが主張をするようになると、保育士等がその主張を受け止めながら、個々の関心や興味に応じた保育を行っている。また、生活リズムの維持や健康意識の向上にも力を入れており、食育月間などを通じて適切な栄養摂取や生活習慣の形成が図られている。自然環境を取り入れた保育や食育が多く見られ、野菜の栽培や収穫、調理、栄養士による食育実験などが実施されている。

保護者との連携も重視されており、ICTを活用した連絡帳でのやり取りが行われている保育所等もある。職員間の情報共有も重視されており、クラス会議や職員会議等を通じてこどもの発達状況を全職員で共有し、一人一人のこどもの状況把握に努めている。

(イ) 3歳未満から3歳以上への保育の移行を意識した保育の実施

■ 全般

ヒアリング全体を通じて、ほとんどの保育所等がこども一人一人の成長に配慮した保育あるいは教育・保育（以下、保育等とする）が重要と考えて個別の計画を作成している。そのため、特に保育の移行について意識的に配慮しているとした回答はみられなかった。一方で、各年齢の指導計画の他、0歳から1歳、1歳から2歳、2歳から3歳という2年単位の長期計画を作成している保育所等もあり、その中で各年齢への移行について計画している保育所等もあった。全体的には、環境面における配慮（例：2歳のころから徐々に3歳児以上の部屋に遊びに行く）や職員間での引継ぎが円滑に行われるように各保育所等で工夫がなされている。

■ 健康

アンケート調査において、保育あるいは教育・保育の5領域のうち、「健康」の内容に「難しさを感じている」と回答する保育所等の割合が比較的多かった。特に、3歳未満では「様々な食品

や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や感触を楽しむ」、「便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる」、3歳以上では、「自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う」、「危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する」の項目で「難しさを感じている」が多かった。そのため、ヒアリングでは、低年齢児における一人一人の生活リズムや状態に配慮した食事や排せつに関する支援、3歳以上児における、自分の健康に興味や関心を持ち、自ら病気の予防などに必要な活動を進んで行えるようになる支援および自ら危ない場所や行為に気が付き、安全に気を付けながら遊べるようになる支援について話を伺った。

各保育所等において、健康・食育・安全に関する多様なアプローチが取られている。特に食育や健康教育では、保護者との連携が重視され、生活リズムや食事内容の伝達が行われている。例えば、保護者向けの「眠育」セミナーの実施や、2か月に1回のこどもと共にランチをとり、保育所の食育に対する姿勢を実感してもらう機会の提供等が実施されている。また、こどもに対しては、歯磨きや洗顔の重要性も伝えたり、こどもの健康習慣が定着し、元気に過ごせるようになる取組が行われており、3歳児以上には看護師による健康教室も行われている。排泄に関しては、保護者の意向を重視しつつ、保護者と連携しながらこどもの生活リズムを把握した上で、個別対応が行われている。

その他、安全教育では、教材を使った教育以外に実体験を通じて危険回避能力を育てる取組が多く、こども自身が危険を察知する力を養うことを目指している。また、こどもと話しあうことにより、こども自身が危険に気がついたり、危険ではない遊び方を考える機会を提供している。

■ 表現

アンケート調査において、保育あるいは教育・保育の5領域のうちの1歳から3歳までの「表現」の中の項目である「保育士・保育教諭等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする」、「生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する」について、「難しさを感じている」の回答が多かった。したがって、ヒアリングにおいて、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにしたり、こどもが自分なりに表現したりする活動について、こどもの年齢に応じて工夫して取り組んでいることについて話を伺った。

こどもの表現力を豊かにするための工夫が各保育所等でなされているが、共通の傾向として、こどもの興味や関心を引き出すための環境整備や、自由な表現活動を促す取組が行われている。例えば、ある保育所等では、保育士等がこどもに楽器には様々な種類があることを知ってほしいという思いから壁に楽器の写真を掲示すると、「楽器を作りたい」とこども達の興味や関心が広がり、こども一人一人が自分の楽器をつくることを楽しむことができていたり、ある保育所等では、「仕事」をテーマに働く人（八百屋、医者、ケーキ職人、ダンサー等）になりきるごっこ遊びを通じて、こども達の表現活動を豊かにする活動を行っていた。また、自由な表現を可能とする環境の整備も多くの保育所等で行われており、自由に制作活動ができるコーナーやワゴンを設置する

ことで、こどもの自主性を尊重している。

一方で、保育士等の役割も重要であり、対話を通じてこどもの興味や意欲を引き出すことや、褒めることで自信を持たせることが重要であると認識されている。

しかし、デジタル化の進展により、リアルな取組に興味を持ちにくいこどもが増えていることや、保育士等の研修時間の確保が難しいことなどの課題もあげられている。

(ウ) 3歳児以上の転園および転入について

3歳児以上の転園や転入が多くみられる保育所等は限られていた。その中で、転園や転入が転入発生する場合には、転園先と転園元が十分に情報共有を行いこどもの状況を把握すること、保護者と前園でのこどもの様子やそれに対する保護者の思いなどの様々な話を聞く等により保護者とのコミュニケーションを密にすること、こどもが無理なく新しい環境に慣れるよう保護者に調整や協力を求めることなどが行われている。また、受け入れる際に、園長等が保護者に対し、運営方針だけではなく、こどもの育ちにおける大切な事項等を時間をかけ丁寧に説明している保育所等もあった。

(4) 保育における ICT・デジタル機器の活用

共通の傾向として、保育士等がこどもの学びや興味を広げるために ICT を利用するケースが多く、こどもが機器に触れる機会がある保育所等は2か所であった。その内の1か所では、4、5歳児が簡単なプログラミングを体験する機会を設けていた。一方で、保育等の場面での ICT 利用は控え、保護者支援に ICT 活用の重点をおく保育所等もあり、保育等の現場での ICT の活用は限定的であった。ICT の利用における課題としては、デジタル依存や個人情報の取り扱い、職員間のデジタルリテラシーの差が挙げられた。全体として、保育所等ごとの方針や環境に応じて ICT の活用方法やその課題への対応が異なることが分かった。

(5) 小学校との接続を意識した保育の実施

(ア) 小学校との接続を意識した計画の作成および保育の実施

小学校との接続を意識した計画や保育等の実施については、言及する保育所等が限られた。接続を意識した独自の取組よりも、小学校との連携に言及する保育所等が多く、小学校の連携については、後述(ウ)小学校との連携および情報共有を参照されたい。

(イ) 幼児期の後半における下記領域における保育の実施

■ 人間関係および言葉

幼児期の後半になると集団的な遊びや協同的な活動も見られるようになり、また、小学校での育ちや学びを見据えた場合に、言葉を使つてのコミュニケーションが重要になってくる。一方で、アンケート調査では、保育あるいは教育・保育の5領域のうちの「人間関係」の項目である「自

分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く」や「言葉」の項目である「人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す」および「生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く」に「難しさを感じている」の回答が多かった。したがって、ヒアリングにおいて、保育者や友達などの話を注意して聞いたり、自分の思いや考えを相手にわかるように話すための取組、および生活の中で言葉の楽しさや美しさ、文字で伝える楽しさを味わえる活動について話を伺った。

絵本の読み聞かせや言葉遊びや子ども達同士で話し合う機会を通じて、こどもが言葉や表現に興味を持つように工夫をしている。また、地域の民話やお芝居を通じて言葉の美しさや多様性に触れる機会を提供している保育所等もある。これらの取組は、こども達の語彙力や表現力を育む上で重要と考えられている。

次に、こどもが意見を言いやすい環境作りに努めている保育所等が多く見られる。例えば、サークルタイムやランチルーム話合いの場面や給食を一緒に食べる等の交流を通じて、こどもが自然に話を聞く力を育む機会を提供したり、こどもが自分の気持ちを表現するための支援や、言葉遣いに対する指導も行われている。

一方で、いくつかの課題が挙げられている。例えば、こどもが自分の気持ちを表に出すことが少なく、友達同士のぶつかり合いが少ないことへの悩み、こどもに適した指導方法を見つけることの難しさや、保育士等との知識やスキルの向上が必要とされる点が課題として挙げられている。

■ 環境

アンケート調査において、保育あるいは教育・保育の5領域のうちの「環境」の項目である「生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ」や「日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ」、「日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」について、「重視して取り組んでいる」の回答が比較的少なかった。したがって、遊びや生活の中で、こどもが身近な自然や数量・図形、科学に関わる考え方に親しむような活動として工夫していることについて話を伺った。

また、「日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」、「生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」、「保育所内外の行事において国旗に親しむ」について「難しさを感じている」の回答が多かったため、ヒアリングにおいて、保育所等の中だけでなく、社会との繋がりや地域社会の文化への気付きにつながったり、こども自身が地域社会の一員として参加している活動について話を伺った。

多くの保育所等が自然体験を通じてこどもに数量や科学の概念を教える工夫をしている。例えば、たけのこ狩りやじゃがいも掘りで量感を体験したり、野菜の収穫を数えたりする活動が挙げられる。また、虫の観察や植物の成長を通じて自然の生態系を学ぶ取組も多くみられた。一部の保育所等では、指先を使った組み立て遊びやブロックなどを用いて図形に対する興味を促す活動も行っている。

地域を意識するための取組では、地域の高齢者施設や住民との交流を通じて、こどもに地域の

一員であることを感じさせる取組が多い。具体的には、敬老の日の訪問や地域の祭りでのパフォーマンス、伝承遊びなどがある。

しかし、高齢化や人口減少、コロナ禍の影響により、地域との交流活動を制限したり中止している等も多い。これにより、地域との関係性維持が難しくなっている保育所等もある。また、園長等が地域住民ではない場合、地域との関係性構築が難しいという意見もあった。

（ウ） 小学校との連携および情報共有

保育所等と小学校の連携に関する取組では、地域ごとに特色があった。多くの保育所等では、小学校との交流活動や情報共有を通じてこどもの円滑な就学を支援するための取組が行われている。具体的には、こどもの体験入学や学校探検、こどもと児童の共同の制作活動、小学校の公開授業や授業参観、保育参観などの交流イベントが実施されている。また、小学校教師と保育士等との連携会議や合同研修会を通じて意見交換や情報共有を行うことで、教育の連続性を確保している。

免責事項

デロイト トーマツ グループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッド及びデロイトネットワークのメンバーであるデロイト トーマツ合同会社並びにそのグループ法人（有限責任監査法人トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社、デロイト トーマツ税理士法人、DT 弁護士法人及びデロイト トーマツ コーポレート ソリューション合同会社を含む）の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスクアドバイザー、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務、法務等を提供しています。また、国内約 30 都市以上に 1 万 5 千名を超える専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト（www.deloitte.com/jp）をご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、デロイト トウシュ トーマツ リミテッド（“DTTL”）、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファーム及びそれらの関係法人（総称して“デロイトネットワーク”）のひとつまたは複数を指します。DTTL（または“Deloitte Global”）並びに各メンバーファーム及び関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。DTTL 及び DTTL の各メンバーファーム並びに関係法人は、自らの作為及び不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為及び不作為について責任を負うものではありません。DTTL はクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドは DTTL のメンバーファームであり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバー及びそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィックにおける 100 を超える都市（オークランド、バンコク、北京、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte（デロイト）は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、リスクアドバイザー、税務、法務等に関連する最先端のサービスを、Fortune Global 500®の約 9 割の企業や多数のプライベート（非公開）企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促し、より豊かな経済、公正な社会、持続可能な世界の実現に向けて自ら率先して取り組むことを通じて、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来 175 年余りの歴史を有し、150 を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters”をパーパス（存在理由）として標榜するデロイトの約 345,000 名のプロフェッショナルの活動の詳細については、（www.deloitte.com）をご覧ください。

